

しら いわ じょう せき  
**白 岩 城 跡 III**

—長野県佐久市上平尾中世城館跡の発掘調査報告書—

(中 世)

2012. 3

セブン－イレブンジャパン株式会社  
佐久市教育委員会

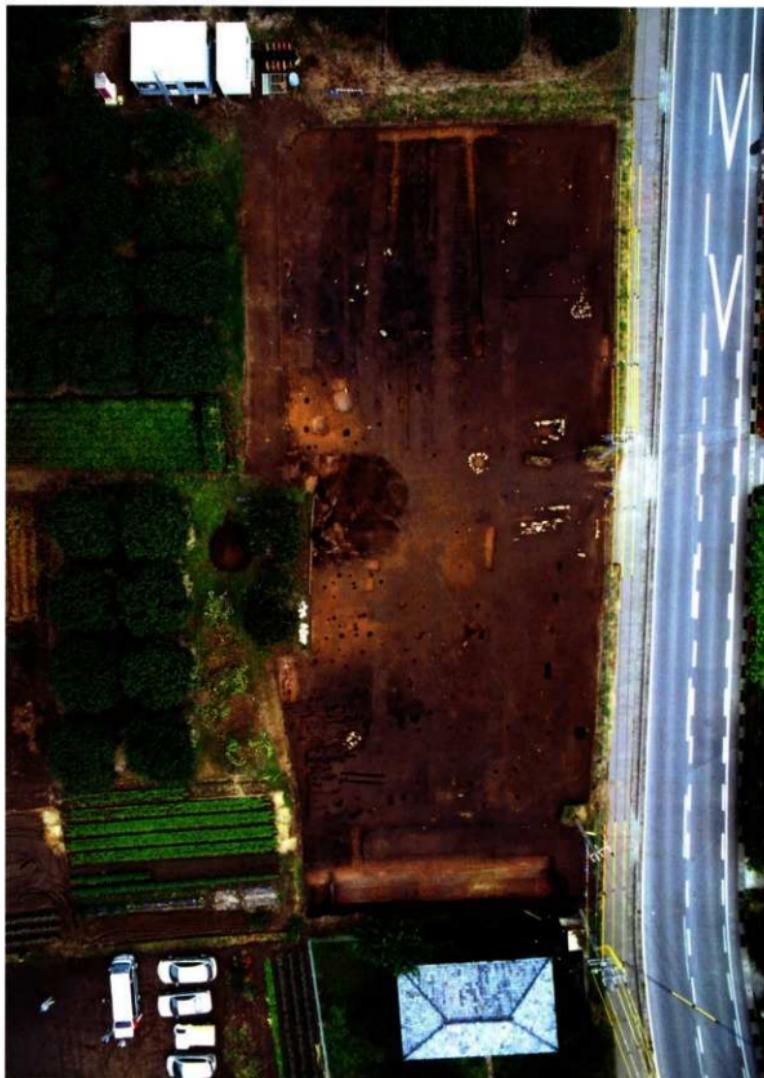
しら いわ じょう せき  
白 岩 城 跡 III

—長野県佐久市上平尾中世城館跡の発掘調査報告書—

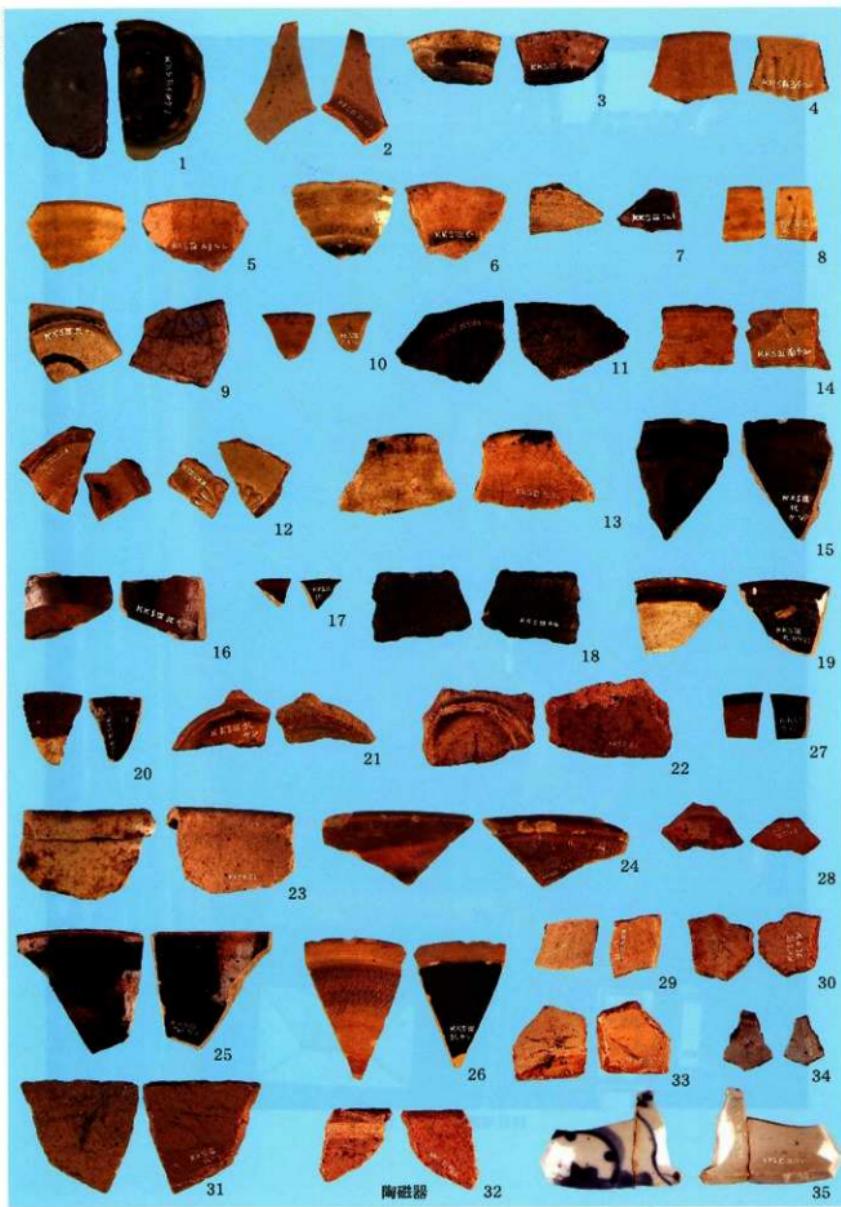
(中 世)

2012. 3

セブン-イレブンジャパン株式会社  
佐久市教育委員会



白岩城跡III 全景（南より）



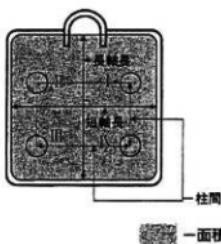
白岩城跡Ⅲ 出土陶器 (1 : 2)

## 例 言

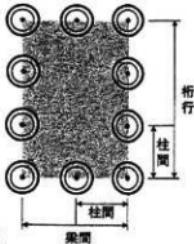
1. 本書は店舗新設工事に伴う発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 セブン-イレブンジャパン株式会社
3. 調査主体者 佐久市教育委員会文化財課
4. 遺跡名および所在地  
白岩（しらいわ）城跡Ⅲ（略号KKS III）  
佐久市上平尾古城跡 967-1外2筆
5. 調査期間及面積  
発掘調査 平成21年(2009)9月2日～10月30日  
整理期間 平成21年11月～22年3月・平成23年(2011)12月～平成24年3月  
調査面積 1,720 m<sup>2</sup>
6. 本報告書に関わる担当は、発掘調査は出澤力、報告書の編集・執筆は森泉かよ子が行った。
7. 陶磁器類は（財）長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏にご教示いただいた。ここに記して御礼申し上げます。
8. 本書及び本遺跡の出土遺物の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

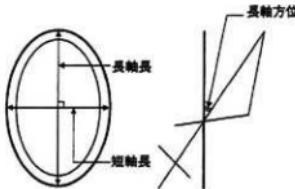
1. 遺構の略号は以下の通りである。  
竪穴状遺構—Ta 挖立柱建物跡—F 土坑—D ピット—P 溝・堀址—M
2. 掘図の縮尺は原則として以下の通りである。異なる場合は図中に明記してある。  
遺構—1/80 遺物 土器—1/4 大型石製品—1/8 陶磁器・鉄製品—1/2  
小品—1/1
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は2005年版『新版 標準土色帖』に基づいて示した。
5. 掘図の遺物番号は写真図版中の遺物番号と同一である。図版中の縮尺はほぼ掘図と同じであるが、異なるものもある。
6. 遺構の計測は下図に示した測定値である。  
長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形とした。



住居址



掘立柱建物址



土 坑



長軸方位

7. 本調査は整地層がみられ、検出を上下の二段階にわたって行っている。上面は4mグリッドを設定後メッシュ測量、下面是平板測量である。
- また、下面で検出された遺構の中には上面に帰属するものもあり得る。掘立柱建物址とした柱穴は、上面と下面にあった場合上面に引き上げて修正をしている。下面検出の遺構は青線で表記している。
8. 遺物一覧表の（ ）は推定値、（ ）残存値、ーは測定不可能であることを示す。
9. 本報告書挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

#### 遺構

地山断面 堀 土 墓

#### 遺物

赤色塗彩 稈 磯

#### 主な検出遺構・遺物

##### 遺構

掘立柱建物址	9棟
竪穴状遺構	3棟
土 坑	45基
石 組	1基
堀 址	1本
滑 址	4本
単独ピット	426個（掘立柱建物址分含む）

##### 遺物

陶磁器—青磁碗・白磁皿・瀬戸大窯灰釉小皿・瀬戸美濃丸皿・前山灰釉椀・かわらけ・内耳鍋  
鉄製品—鉄鎌・刀子・火打金具・角釘・毛抜・角軸

青銅製品—柄縁・鞘尻・渡金製品

古錢—渡来錢・唐錢・北宋錢・明錢

邦銅錢—寛永通寶

石製品—編物石・輕石製品・砥石・台石・硯・スクレイパー・茶臼・粉挽臼・五輪塔・石鎌・石匙  
骨—ウシカウマの骨・歯

# 目 次

## 巻頭図版

### 例 言

### 凡 例

### 主な検出遺構・遺物

### 目 次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 調査の概要	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	4
第1節 自然環境	4
第2節 歴史的環境	4
第Ⅲ章 基本層序	7
第Ⅳ章 遺構と遺物	11
第1節 遺構	11
1. 掘立柱建物址	11
2. 竪穴状遺構	13
3. 土坑	15
4. 単独ピット	22
5. 南堀・土塁・溝址	22
第2節 遺物	23
1. 陶磁器	23
2. 内耳鍋・火鉢・土板	23
3. かわらけ	23
4. 金属製品	23
5. 古錢	25
6. 石製品	25
7. 羽口	31
8. 骨	31
9. 中世以前の遺物	31
第Ⅴ章 まとめ	32
引用参考文献	36
付表	41
図版	55

## 挿図目次

第1図 白岩城跡位置図（1：50,000）	1
第2図 グリッド設定図（1：500）	3
第3図 発掘区設定図（1：2,000）	3
第4図 周辺遺跡分布図（1：20,000）	5

第5図	白岩城跡・平尾（秋葉山）城縄張図（1：10,000）	6
第6図	基本層序模式図	7
第7図	白岩城跡Ⅲ全体図	9・10
第8図	F 1・F 2号掘立柱建物址	12
第9図	F 3号掘立柱建物址	13
第10図	F 4・F 8号掘立柱建物址	14
第11図	F 5・F 6号掘立柱建物址	15
第12図	F 7号掘立柱建物址・M 4号溝址	16
第13図	竪穴状遺構	17
第14図	上坑（1）	18
第15図	土坑（2）	19
第16図	土坑（3）	20
第17図	土坑（4）	21
第18図	土坑（5）	22
第19図	南堀断面図	23
第20図	陶磁器（1）	24
第21図	陶磁器（2）	25
第22図	内耳鍋・火鉢・かわらけ・土板	26
第23図	金属製品	27
第24図	古錢	28
第25図	石製品（砥石・磨石・台石他）	29
第26図	石製品（五輪塔・石臼）	30
第27図	石製品（石鎌・石匙）	31
第28図	骨・歯	31
第29図	中世以前の出土遺物	31
第30図	『白岩城跡Ⅰ』瀬戸灰釉端反皿・かわらけ	32
第31図	北山寺遺跡中世遺構図	33
第32図	白岩城跡Ⅲの虎口	34
第33図	白岩城跡Ⅲ出土の主たる遺物分布図	37・38
第34図	白岩城跡地形測量図	39・40
付図	白岩城跡Ⅲ横断面図	
挿図目次		
第1表	白岩城跡Ⅲ遺構一覧表	41
	竪穴状遺構	41
	掘立柱建物址	41
	溝址	41
	土坑	42
	単独ピット	44
第2表	白岩城跡Ⅲ出土遺物一覧表	49

# 第Ⅰ章 発掘調査の概要

## 第1節 発掘調査に至る経緯

白岩城跡は佐久市の北部中央にあり、南流する湯川左岸の河岸段丘にのぞむ第2段丘崖上にある。今回、セブン－イレブンジャパン株式会社の店舗新設が計画され、城跡として周知のところであり、試掘調査の結果遺構・遺物を検出した。立地は浅間山南麓の西にのびる田切り地形の台地にあたり、湯川が屈曲して三方を囲み、浸食により断崖となっている。台地側は堀で切断して内郭を作り出している。標高は742mを測る。

昭和63年（1988）に県道草越・豊昇・佐久線の改良工事事業に伴い拡幅部の発掘調査がなされている。道路拡幅部である現道の西側から南北に延びる堀の西側面を検出している。工事区の北側では郭の上面の調査で5基の土坑と溝がある。

今回の開発地点は昭和63年の白岩城跡Iの調査と一部連続する主郭の南東部にあたる地点である。試掘の結果遺構・遺物が検出され、店舗新設により遺跡が破壊されるため、遺跡の記録保存を目的として発掘調査を行った。



## 第2節 調査体制

佐久市教育委員会

平成21年度（2009）

教育長 木内 清（～5月）土屋盛夫（5月～）

社会教育部長 内藤孝徳（～6月）工藤秀康（7月～）

社会教育部次長 金澤英人（～6月）

文化財課長 森角吉晴 文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係 林 幸彦 並木節子 須藤隆司 小林眞寿

羽毛田卓也 富沢一明 上原 学 出澤 力

神津 格（～9月）井山泰章（10月～）

調査担当者 出澤 力

平成23年度（2011）

教育長 土屋盛夫

社会教育部長 伊藤明弘

社会教育部次長 藤牧 浩

文化財課長 吉澤 隆 文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係 林 幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也

富沢一明 上原 学 並木節子 出澤 力（～6月）

井山泰章（～9月）神津一明（10月～）

調査担当者 森泉かよ子

調査員

浅沼ノブエ 甘利隆雄 安藤孝司 岡村千代美 小井戸秀元 小林百合子

小山 功 土屋武士 中島フクジ 細萱ミズズ 日向昭次 白瀬秋男

山田英輝 油井満芳 渡辺久美子 渡辺 学

報告書作成担

堺 益子 柳澤孝子（遺物実測）副島充子 上山貴恵（トレース）菊池喜重（復元）

林美智子（版下作成）細谷秀子（図面修正）吉田信行（図版作成）依田好行（遺物撮影）

柳沢亞矢子（割付・表作成）

## 第3節 調査日誌

平成21年度（2009）

9月 2日 本日より現地に調査員を入れ、検出作業。

10月30日 現場の作業を終了、機材の撤収。

11月 2日 室内で図面整理・遺物洗浄・注記作業を行う。

平成23年度（2011）

12月～2月 図面修正、遺物実測、トレース、遺物写真撮影、

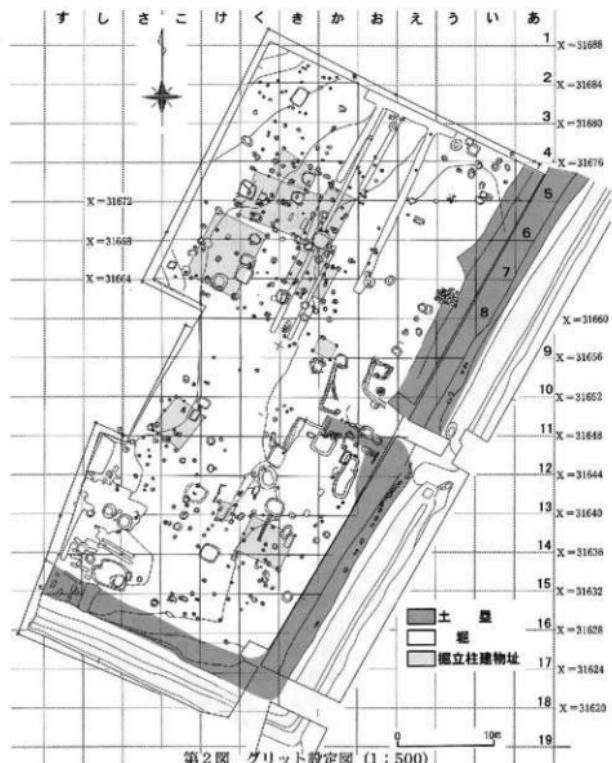
報告書版下作成、編集・執筆。

3月 報告書刊行。

## 第4節 調査の概要

主郭の南東部の調査で、南東を堀と土塁が方形に囲んでいたことが確認された。土塁の上面は削平され、基底部にわずかな痕跡を残すのみである。東側の土塁は底幅5m、南側の土塁は底幅3mほどを測ると推定される。

館の入りである虎口について、推測を含むものの明らかにすることはできた。白岩城跡Ⅰの調査では、調査区の東中央で堀が切れて、土橋が検出されており、今回の調査では土橋のところで南から続



く土塁が西に折れて4mほど続き、さらに直角に曲がり北に折れた痕跡がみられた。

建物は掘立柱建物址を中心で、北西と南中央にまとまっている。竪穴状遺構は少なく、工房的なものはみられない。

遺物では瀬戸大窯製品の小皿、かわらけ、内耳鉢、鐵鎌や刀の金具がある。石製品では砥石、茶臼、粉挽臼などが出土している。

遺物の年代は15C末～16Cに該当する資料であり、また刀の金具や鐵鎌など武器関連の遺物があり、平尾氏が15C中頃に佐久平尾の地に土着し、16C末に藤岡に移動した伝承や史実とあうことが明らかになった。

17C代の瀬戸美濃製品もあり、江戸時代初めにも一部は營みが継続したものとみられる。



## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 自然環境

本調査地点は佐久市の北西部、浅間山麓裾野にあたり、千曲川支流の湯川に臨む台地上にある。湯川は浅間山の東側から流出して南流、岩村田で西に方向を変える。御代田・岩村田地域では河岸段丘を二段にわたって形成し、いたるところで極端な蛇行曲流の河川となっている。

白岩城の東1kmには山城が築かれ、秋葉山に平尾城、尾根を北にゆくと白山砦、そこから東に向かうと烽火台址といわれる平尾富士山頂にいたる。平尾富士は第三紀の死火山といわれている。白岩城跡は平尾富士の裾を巻くように、その上部に浅間火山噴出物である浅間第一軽石流（P1）が厚く堆積しているところである。

本遺跡は湯川の第二河岸段丘の縁であることから第一軽石流は浸食され、西は断崖となり、低い河岸段丘面があり、さらに下を湯川が南流している。蛇行する湯川が屈曲し城郭の三方を囲んでおり、天然の要害となっている地点である。

### 第2節 歴史的環境

本調査地点は、原始・古代の遺構は確認されていない。

岩村田を中心とした中世遺跡群では、初頭の根々井の正法寺がある根井氏館跡は木曾義仲に従った根井行親の館とされ県の史跡となっている。次いで中世前半の遺跡では、佐久市中央図書館の南、野馬塚遺跡II・IIIは二重の溝で囲まれ、外側の溝は一辺90m以上の「一丁四方」を測る館がある。掘立柱建物を中心として、竪穴状遺構・井戸などの中世遺構があり、遺物は12C後半～14C前半代の陶磁器・土器・刀を出土している。

岩村田市街の東にあって湯川の断崖に望む大井城跡は三城からなり、4.王城は中世佐久の北の領主であった大井氏の居城とされている。その南の5.黒岩城跡が発掘調査され、54棟の竪穴状遺構・掘立柱建物・土坑などからは15・16世紀の遺物を出土している。大井城跡の400mほど南の13.下信濃石遺跡では、大井氏の氏寺である龍雲寺伝承地であり、大型の竪穴建物跡や基壇を持ち石積で囲み整地をした平場、そして遺物は14～15C代の古瀬戸の水滴や青銅製の鏡片を出土している。

岩村田市街の南にある観音堂遺跡は観音堂を取り巻く町屋、こども未来館のある柳堂遺跡は掘立柱建物と苑池、それらを囲む溝やかわらけ溜まりがあり、有力者の館と推測される。岩村田市街の南西にある北・本柳遺跡IIIでは、漆刷毛や漆製品が竪穴建物跡から出土し、漆の工房址が調査されている。

新幹線佐久平駅北西1kmの長土呂の周防畠遺跡群の堂常遺跡の中世の遺構は、竪穴状遺構と井戸で構成される。岩村田市街の北にある10.栗毛坂遺跡群B区（高速道路地点）では100m四方の溝により区画され、中に馬屋であろう竪穴状遺構があり、武士化した農民の館と推測されている。浅間中学校の旧校庭の南側からは中世の水田址が調査され、五輪塔を転用して尻水口に利用している。小田井の前藤部遺跡では中世の集落全容が調査されている。

江戸の歴史書『四隣譚載』に「国府にまされり」とは大井氏の城下町の賑わいを語っている。岩村田を基点としたこれらの中世遺跡群は大井氏の活躍した時代と一致しており多彩な遺構群である。

本調査である白岩城跡はその岩村田を中心に佐久の中世の霸者である大井氏の幕下、5代にわたって仕えた平尾氏の根拠地とされている。

『佐久市志』中世編P590「平尾氏館と平尾城」によれば、

「白岩城は「しいらいわ」と呼称され、古城または里古城と呼んでいる地域は、現平根小学校の裏一帯であるが、南は「うとう坂」の裾切におよんでいる。平尾氏の居館とされ、白色城・平尾屋敷城と呼んでいる記録もある。

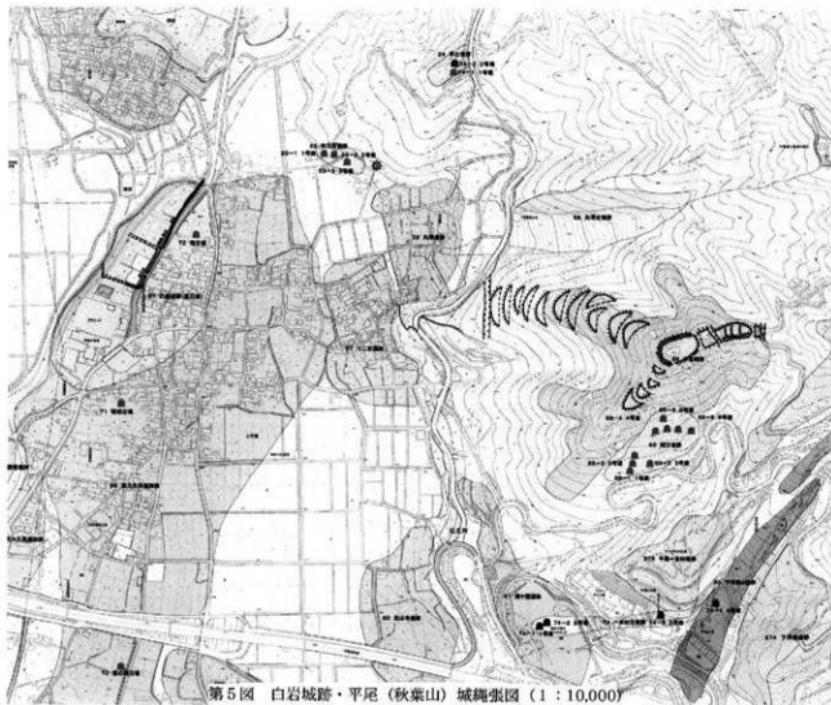
小県郡依田に根拠を置く依田氏は、宝徳・享徳年間（1449～1454）佐久の大井持光に連年攻めら



れ、ついにその幕下となり、修理亮為泰は平尾に居を移して、平尾氏を称した。天正18年（1590）小諸城主依田（松平）康勝が、藤岡に転封になるにおよんで、平尾守芳がこれに従って平尾の地をさる。その間戦火にあうことはなかった。応仁の乱の始まる直前の永正年中（1504～20）1.1km東にある、平尾（秋葉山）頂に山城を、白山に一郭、平尾富士山頂（1,155m）には五郭と堀切りを構築した砦がある。」と記述している。

発掘調査では、昭和63年に県道草越・豊昇・佐久線の道路改良の拡幅工事に伴い、南北の堀と虎口と思われる土橋とピットが検出されている。

平尾（秋葉山）城の南西の裾野の3.北山寺遺跡（1991『上信越自動車道2』P352）は、高速道路の建設に際して調査された。掘立柱建物址1棟、竪穴建物址6棟、土坑50基、火葬墓一基を検出し、出土した銭・内耳鍋からは15C中頃～16C前半と推測され、内側石列を巡らせた竪穴状造構内からは太刀金具が出土し、武士との関連を示すとしている。この一郭も平尾氏に関連するのであろう。出土遺物の年代が、白岩城跡より古く、小県郡から平尾に定着した頃の年代である。



第5図 白岩城跡・平尾（秋葉山）城跡張図（1：10,000）

## 第Ⅲ章 基本層序

第Ⅱ章遺跡の環境で述べたように、本遺跡は湯川の左岸の上段の河岸段丘上にある。湯川は浅間山の東側から流出して南流、南軽井沢地域からの泥川と合流して、西に向きを変え、御代田・岩村田地域では、地殻変動の隆起運動の影響から下刻作用顕著な河岸段丘を二段に渡って形成し、しかもいたるところで、極端な蛇行曲流の河川となっている。

この付近の地層はすべて浅間火山の噴出物によって構成される。2回の軽石流の噴出は、最初の噴出物を第一軽石流（1万3千年前）、後から噴出したものを第二軽石流という。浅間山南麓に、広く展開した軽石流は、塚原泥流の地域に達すると、西と南に分かれ、南にむかった軽石流は湯川の谷を埋めた。（1988『佐久市志 自然編』P83、1986白倉盛男『大井城跡』）

本遺跡の基盤は第一軽石流が地盤である。その上面には漸移層、低地には黒色土が堆積しており、調査地点には整地層がみられた。整地層は炭化物・ロームブロックを含み、人為的に埋土されている。

I 層 黒褐色土層（耕作土）

II 層 黒褐色土層（10YR2/3）整地層。

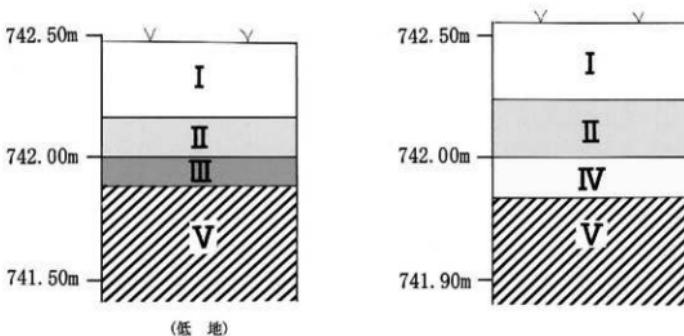
ロームブロック・黒褐色土ブロック・炭化物・ローム粒子・バミスを含む。

暗褐色土層（10YR3/3）整地層。ロームブロック・炭化物・ローム粒子・バミスを含む。

III 層 黒褐色土層（10YR2/2）地山層。わずかにローム粒子・バミスを含む。

IV 層 暗褐色土層（10YR3/4）漸移層。ローム粒子・バミスを含む。

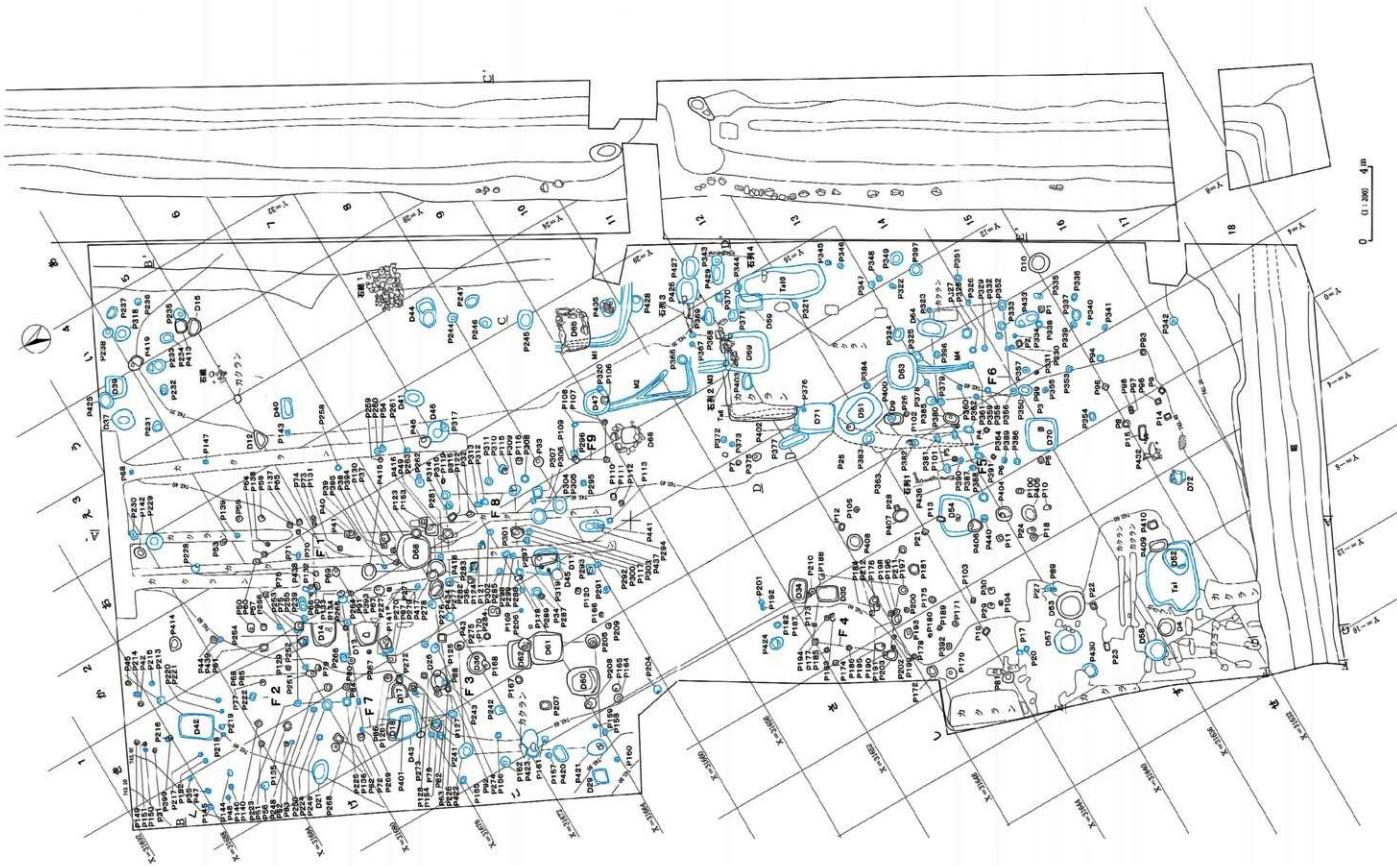
V 層 黄褐色土層（10YR5/6）第一軽石流



第6図 基本層序模式図



第7図 白岩城跡図



# 第IV章 遺構と遺物

## 第1節 遺構

### 1. 掘立柱建物址

掘立柱建物址は調査時点では単独ピットとして記録されており、報告書作成時に組んでいる。8棟を抽出し、同じ棟の柱穴の検出面が上・下にわたるものは、上面にあげて断面図を作成している。F 2・F 5・F 6は下面である。

#### (1) F 1号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、検出ピットは2間×1間、 $6.4m \times 3.2m$ を測る南北棟である。柱穴に礎石のあるP 66・P 434・P 416・P 130でピット形が方形基調の比較的浅い掘り込みに石を置いている。これらの柱間は桁行3.2m梁間2.4mを測り、中間に柱がない。浅い遺構であるため、検出時に削平されたためか、明確な建物としては成り立たない可能性があるが、しかし、何らかの建物は想定したい。

#### (2) F 2号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、下面で検出された。2間×1間、 $4.0m \times 2.48m$ を測る東西棟である。側柱で方形と円形のピット形で構成される。

付近にピットが多く、他にも建物址があるようである。

#### (3) F 3号掘立柱建物址

く6グリッドにあり、3間×2間で、 $7.2m \times 5.6m$ を測る。柱穴の底面に扁平な石を置いて、礎石とするものがP 275・P 423・P 421・P 205・P 206の5個ある。総柱としたが、中央列は西に寄っており、P 242・P 156・P 162・P 157・P 159・P 208で2間×2間、 $4.96m \times 2.64m$ に組むことができる。

#### (4) F 4号掘立柱建物址

け11グリッドにあり、2間×2間の東西棟で、 $4.12m \times 3.6m$ を測る。柱穴は整った位置にはない。

#### (5) F 5号掘立柱建物址

け13グリッドにあり、下面で検出された。1間×1間で、 $1.8m \times 1.6m$ を測る。柱穴の深さが西側のみ深く異なる。桁行の中間にP 363・P 390があり、2間×1間ともいえる。

#### (6) F 6号掘立柱建物址

き14グリッドにあり、下面で検出された。2間×2間の総柱である。 $4.8m \times 3.88m$ を測り、桁行柱間2.4m梁間柱間1.94mである。

#### (7) F 7号掘立柱建物址

か5グリッドにあり、3間×2間十縁の総柱で、東に縁側が付く。桁行7.4m、梁間2.4mを測る。検出面が異なることから上面で断面図を作成している。柱穴はほぼ同一地点に2個あり、立て替えがなされたようである。

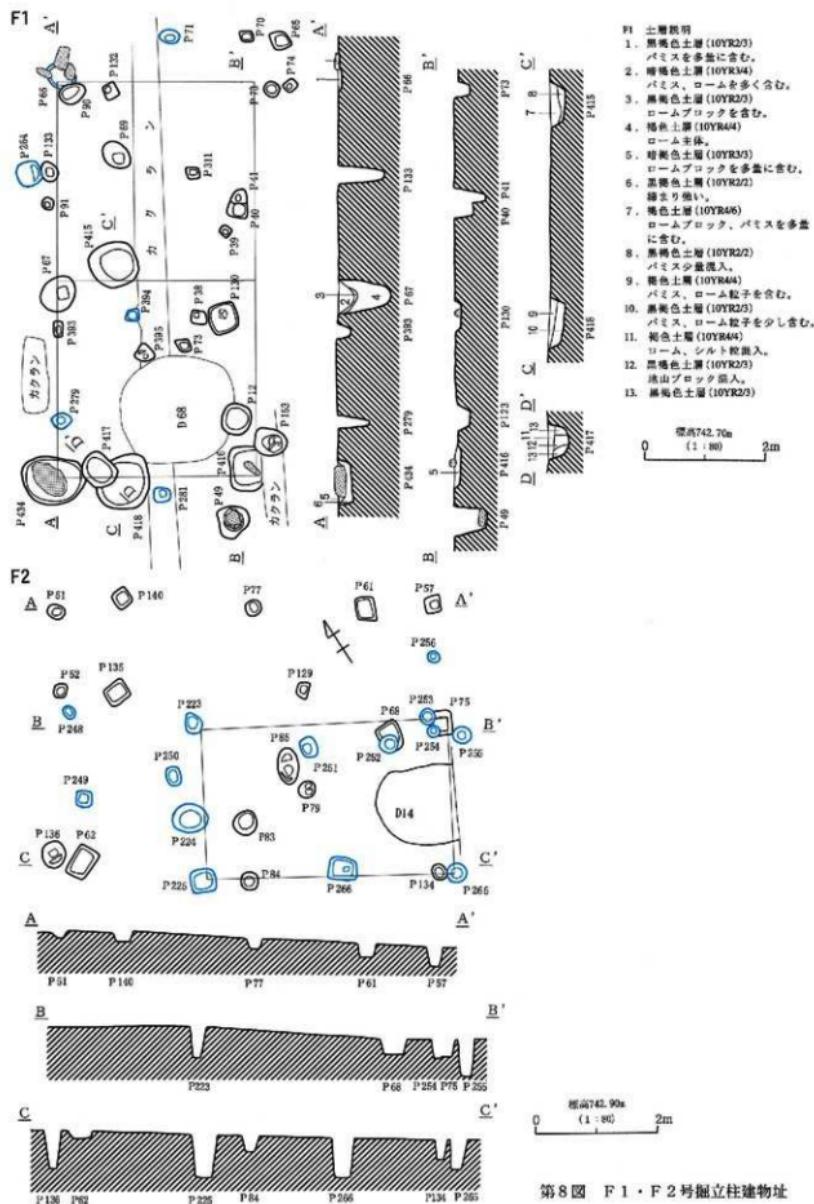
#### (8) F 8号掘立柱建物址

か7グリッドにあり、2間×1間の側柱で、 $4.4m \times 3.6m$ を測る。ピットの底に礎石を置くピットP 49・P 282・P 287・P 309があり、P 49・P 282・P 287は平面形が方形を呈す。煩雑になるので省いたが梁間の間に内周して小ピットがあり（全体図参照）、間数は増えるかも知れない。上面と下面で検出され上面にあわせて断面図を作成している。

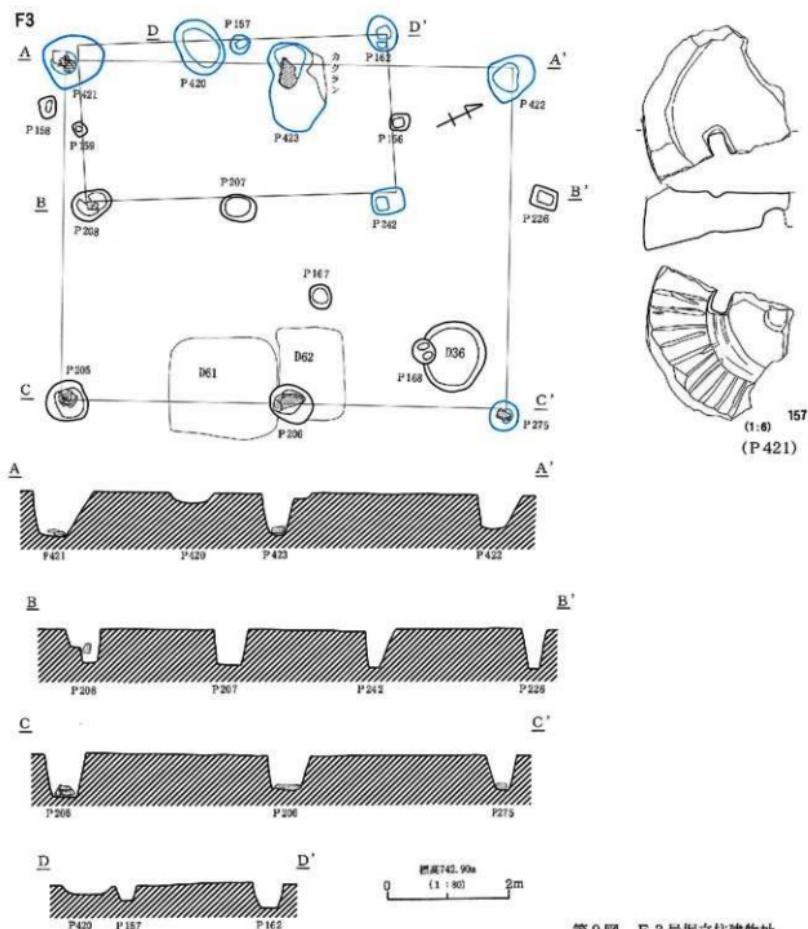
#### (9) F 9号掘立柱建物址（全体図参照）

か9グリッドにあって、P 108・P 109・P 110・P 107が1間×1間の $1.96 \times 1.6m$ を測る。南に接して石組みを伴うD66号土坑がある。

柱穴はいずれも浅く6~28cmを測る。



第8図 F1・F2号桿立柱建物址



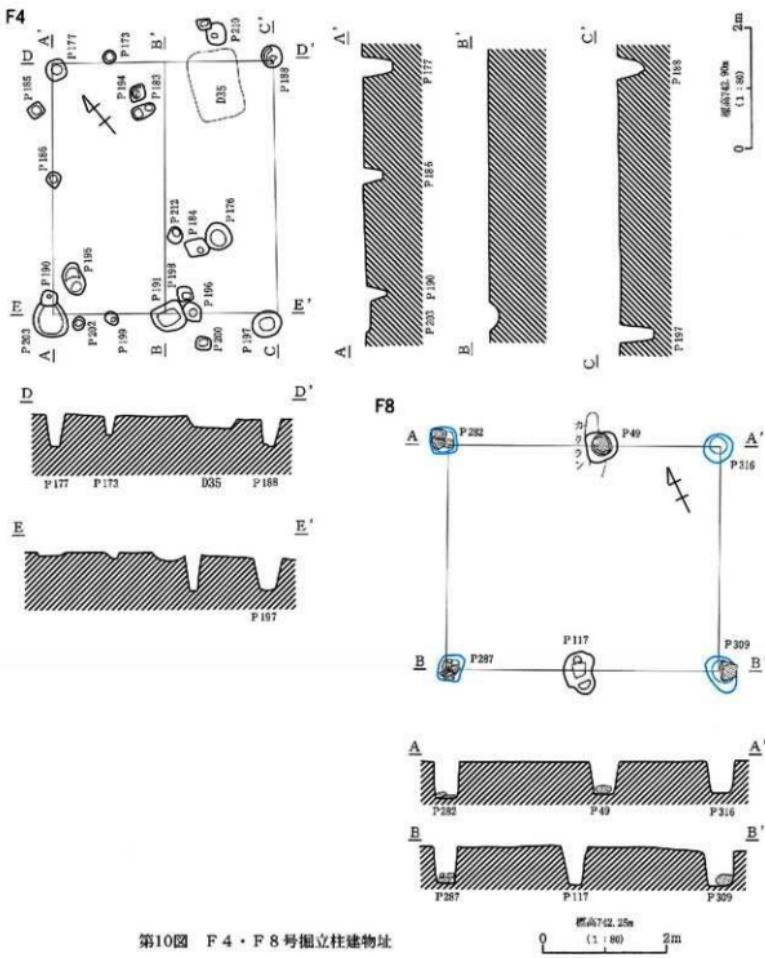
第9図 F 3号掘立柱建物址

## 2. 壁穴状遺構

壁穴状遺構は3棟と数が少なく、柱穴や、火床を持つものは検出されていない。

### (1) T a 1 壁穴状遺構

し15グリッドにあり、長軸3.36m、短軸2.46mを測り、南西に張り出しを持つ円丸長方形を呈し、深さは最大で25cmを測る。D 52と重複するが伴うものか新旧については不明である。底面は平坦である。



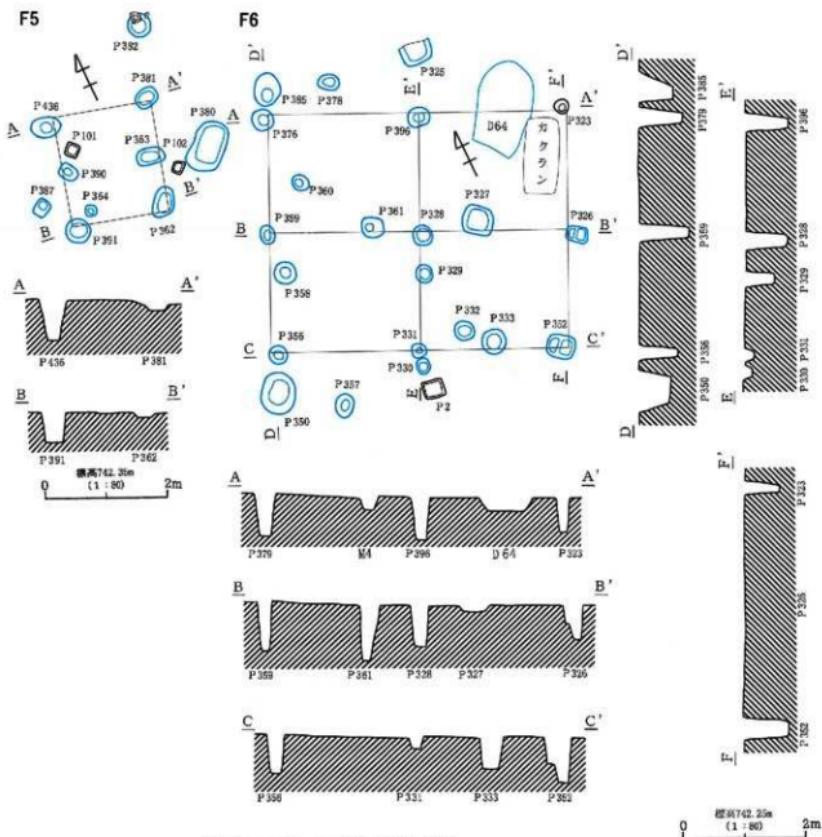
### 第10図 F4・F8号掘立柱建物址

(2) Ta 6 積穴状遺構

き11グリッドにあり、東は搅乱（トレンチ）に切られて不明である。長軸3.37mを測り、長細い長方形を呈す。

### (3) Ta10竖穴状遗構

お12グリッドにあり、長軸3.96m短軸1.2mを測り、不整形な長方形を呈す。土壘の脇にあり、断面は船底形を呈す。



第11図 F 5・F 6号掘立柱建物址

### 3. 土坑

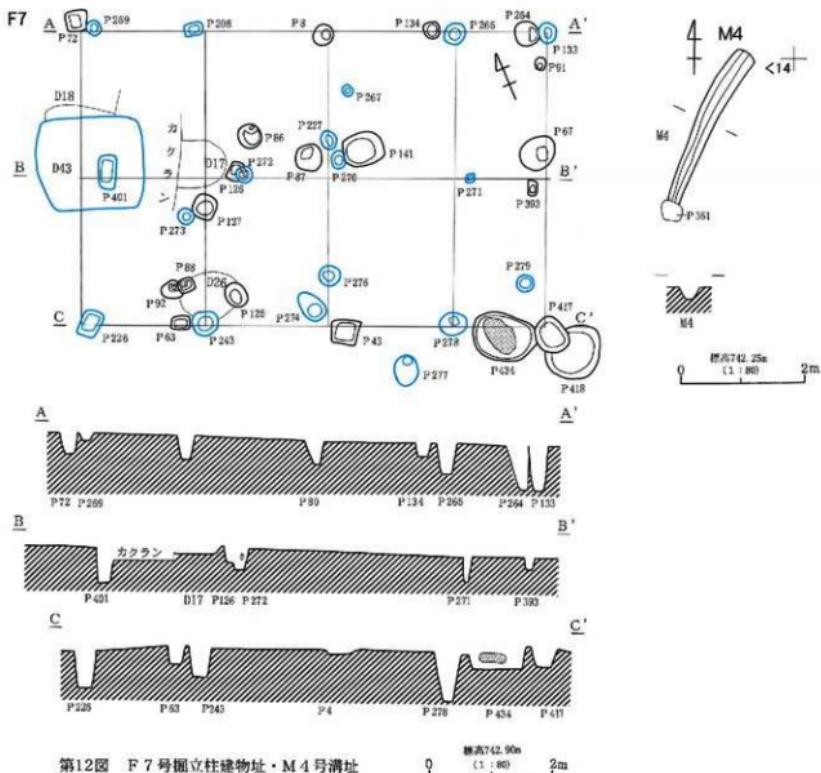
土坑は45基調査した。規模・形態で分類し、その中で形態等で特徴のある土坑について述べる。

#### (1) 方形を呈し、長軸180cm前後の規模の土坑

D43・D54・D61・D63・D68・D69・D70は 積穴状造構と同様平坦な底面を持ち、内耳鍋片・かわらけなどの中世遺物を出土する。

##### ★D54号土坑 (I B 4)

こ13にあり、長軸5.12m短軸1.8m深さ59cmのやや歪んだ長方形を呈し、P13・P406に切られる。出土遺物には五輪塔の水輪、軽石製品、内耳鍋、青銅製の刀柄縁、鉄製の角軸が出土している。柄縁の刃幅は3.4cm厚さ1.2cmを測る。



第12図 F7号掘立柱建物址・M4号溝址

標高742.90m  
(1:80) 2m

★D61号土坑（IB4）

く7グリッドにあり、長軸1.74m短軸1.62m深さ0.69mを測るほぼ方形の土坑である。F3号掘立址(P206)に切られ、D61と接している。擂鉢、かわらけ、内耳鍋、須恵器の杯片を出土する。近世の遺物を混入する。

(2) 長方形または楕円形で中規模の土坑

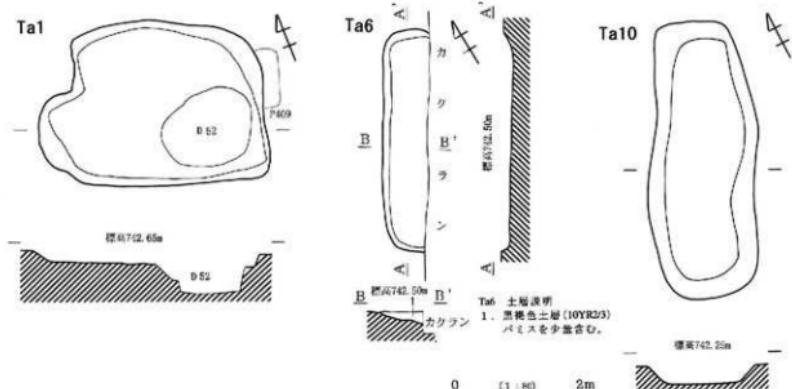
長方形ないし橢円形を呈し、比較的規模が大きく、底面が船底状である。

★D11号土坑 (LC3)

き8グリッドにあり、長軸1.36m短軸0.58m深さ0.28mを測り、長方形を呈す。内耳鍋ほぼ1個体を出土し、火熱を受けた石と砥石を出土している。ただし、土坑の覆土に炭化物・焼土がみられないことから、焼成坑ではないようである。

#### ★D51号土坑(II B4)

く12グリッドにあり、梢円ないし隅丸長方形で長軸2.48m短軸1.80m深さ0.76mを測り、底面は船底状である。かわらは、火鉢を出土する。



第13図 穴状遺構

#### ★D 65号土坑（I B 4）

お10グリッドにあり、土坑内側の縁に石組を持つ土坑で、長軸2.16m短軸1.56m深さ0.82mを測る。青磁碗、周辺からであるが、外面に金メッキの管状の青銅製品、角釘が出土している。西端で幅50cmほどの溝M 1と重複している。底面は片側が落ち込んでいる。

#### （3）小型の円形・橢円形土坑

やや不整な橢円形で、長軸で1m前後を測り、深さを持たず浅く、底面が船底状の土坑。内耳鍋を出土する土坑が多い。焼成坑などが推測される。

#### ☆12号土坑（II B 3）

え5グリッドにあり、長軸0.94m短軸0.76m深さ0.24mを測り、内耳片を出土する

#### ☆D 15号土坑（II B 3）

い5グリッドにあり、長軸1.0m短軸0.62m深さ0.17mを測り、内耳鍋片を出土する。

#### ☆D 21号土坑（II B 3）

く4グリッドにあり、長軸1.28m短軸0.88m深さ0.25mを測る。覆土に焼土ブロック・炭化物を多く含んでいる。

#### ☆D 37号土坑（II A 3）

う4グリッドにあり、長軸1.1m短軸1.04m深さ0.25mを測る。内耳鍋片を出土する。

#### ☆D 44号土坑（III）

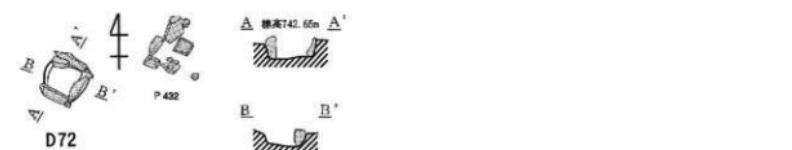
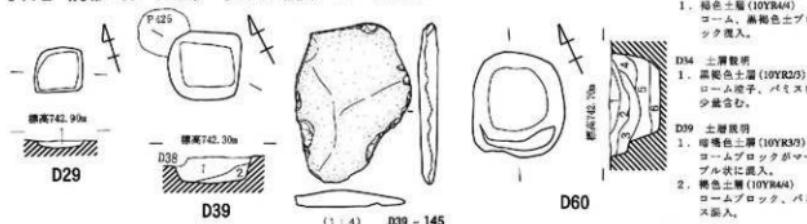
え8グリッドにあり、長軸1.48m短軸0.88m深さ0.41mを測り、橢円形に浅い方形部が接続している。底面に炭化物を多量に含む。出土遺物には内耳鍋片と磨石がある。

#### ☆D 66号土坑（II B 4）

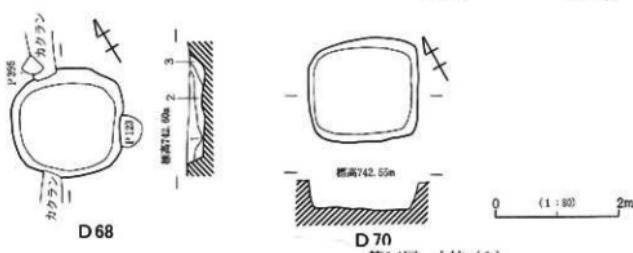
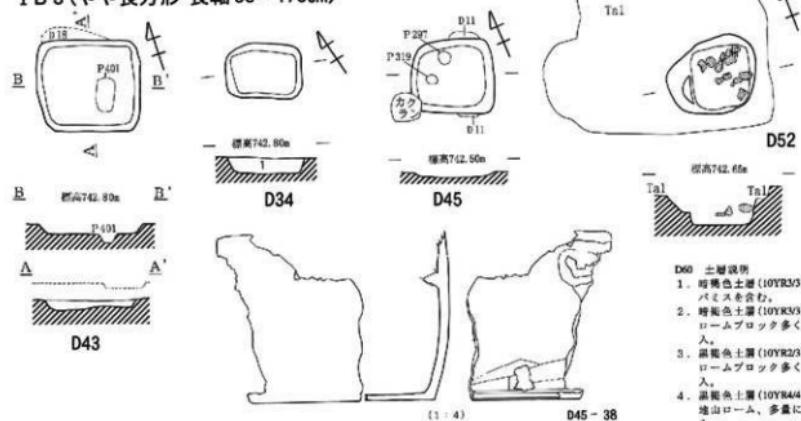
か10グリッドにあり、土坑の上面で石が方形に組まれ、内周で1.2×0.9mを測る。堀方は橢円形で長軸2.12m短軸1.88m深さ0.42mを測る。

#### （4）小型の方形土坑

I A 2 (方形 60~90 cm) • I A 3 (方形 90~170 cm)

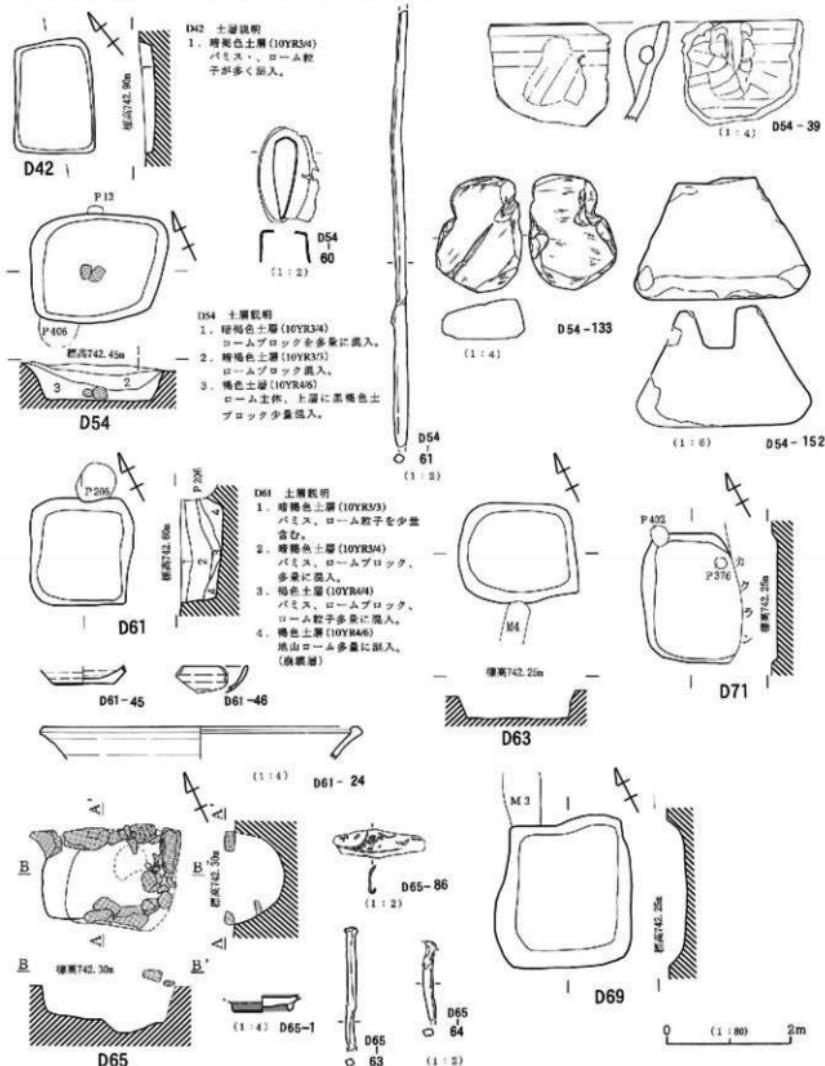


I B 3 (やや長方形 長軸 90~170cm)



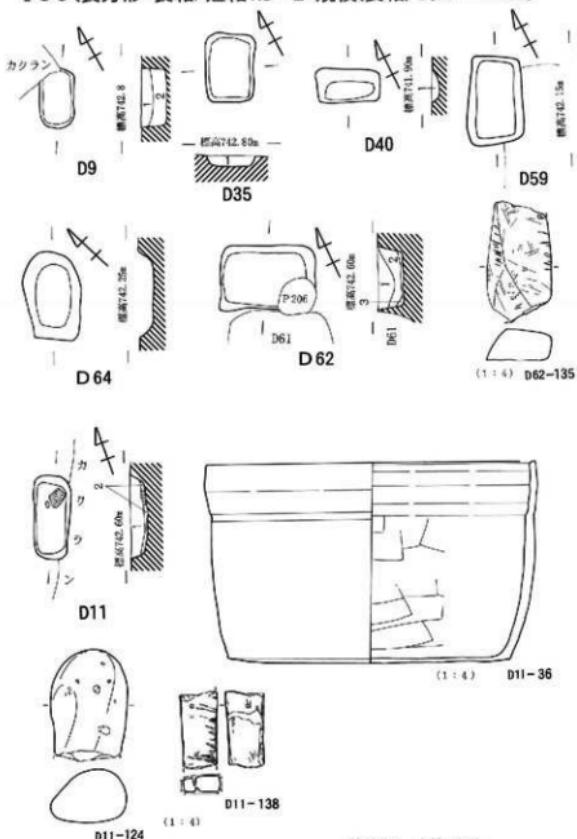
第14図 土坑 (1)

I B 4 (やや長方形・長軸/短軸1~1.5・規模(長軸)4(170~250cm)



第15図 土坑 (2)

I C 3 (長方形・長軸/短軸1.5~2・規模(長軸) 3(90~170cm)



第16図 土坑 (3)

### ★D72号土坑

さ10グリッドにあり、西壁を除いてコの字に石が組まれている。規模は長軸0.81m短軸0.67m深さ0.3m、石の内面では幅0.64mを測る。隣接してP432の同様の石組がある。堀方不明。

### (5) 石敷造構

#### ☆石組1

う8グリッドにあり、約長軸2.32m短軸2.12mの長方形範囲に礫が平坦に並ぶ。南端は列状に整えている。堀方がないので土坑としなかった。

### D9 土層観察

1. にじみ、黄褐色土層 (10YR4/2)  
バニス、ロームブロック多く混入。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  
バニス、ロームブロックを含む。

### D11 土層観察

1. 緑褐色土層 (10YR3/3)  
バニス、ロームブロック多く混入。
2. 黑褐色土層 (10YR2/3)  
ロームブロックを少々含む。

### D35 土層観察

1. 緑褐色土層 (10YR3/4)  
ロームブロックを少々含む。

### D61 土層観察

1. 黑褐色土層 (10YR2/2)  
バニスを幾重に含む。

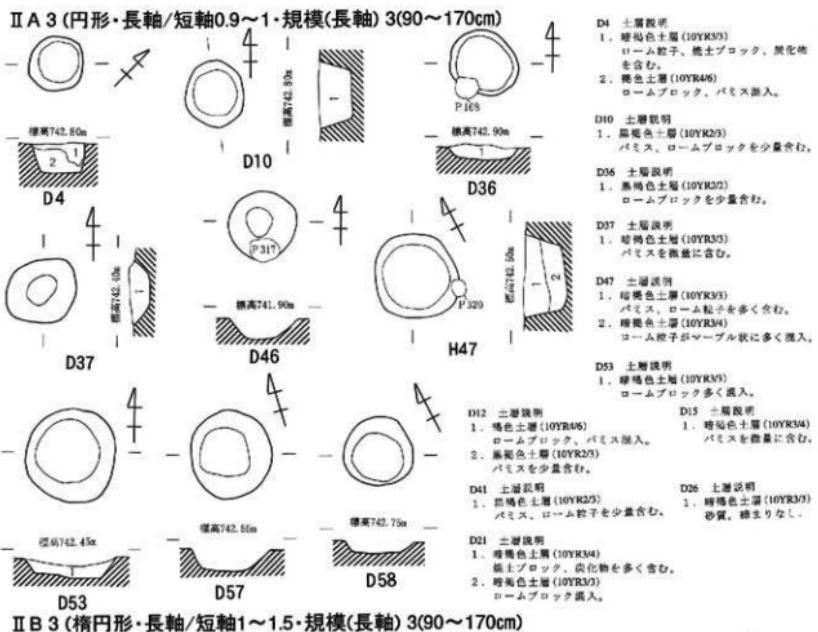
### D62 土層観察

1. 緑褐色土層 (10YR3/3)  
バニス、ローム粒子を少量含む。
2. 緑褐色土層 (10YR3/4)  
バニス、ロームブロック、多量に混入。
3. 緑褐色土層 (10YR4/4)  
バニス、ロームブロック、ローム粒子、多量に混入。
4. 黑褐色土層 (10YR4/6)  
地山ローム多量に混入。  
(崩落層)

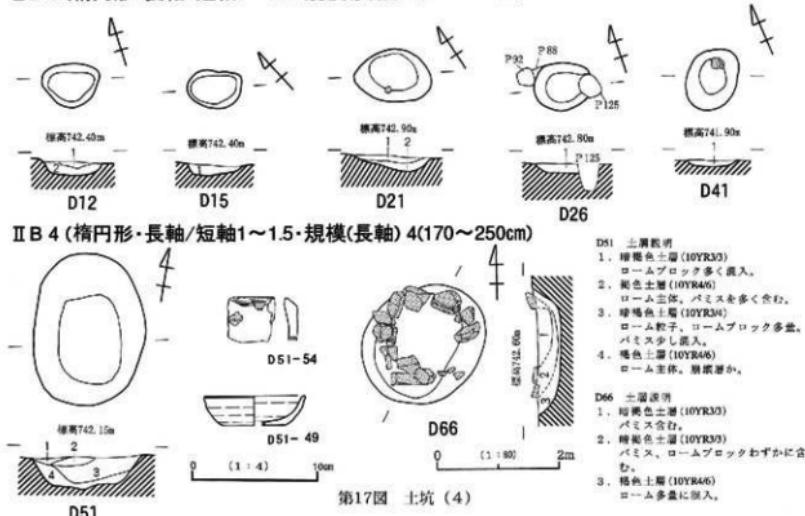
### D62 土層観察

1. 緑褐色土層 (10YR3/3)  
バニス、ローム粒子を少量含む。
2. 緑褐色土層 (10YR3/3)  
ロームブロックを多く含む。
3. 黑褐色土層 (10YR4/6)  
ローム粒子多く混入。

0 (1:80) 2m

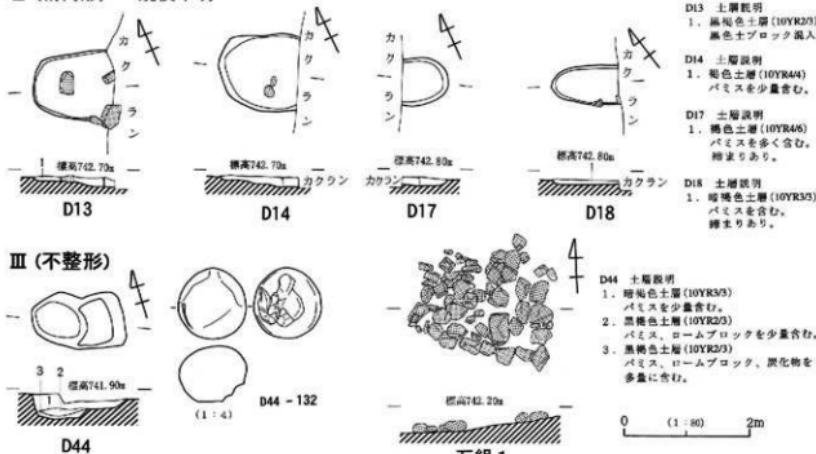


**II B 3 (椭円形・長軸/短軸1~1.5・規模(長軸) 3(90~170cm)**



第17図 土坑 (4)

## II (橢円形)・規模不明



第18図 土坑 (5)

## 4. 単独ピット (全体図参照)

### (1) 構列

おへき3・5・8・9グリッドにありP228・P60・P71・P131・P38・P302・P303・P441は2.16m間隔ほどで南北に直線になっており、構列とされようか。その西側に掘立柱建物、土坑・ピットが集中している。

### (2) ピット群

ピットの集中箇所は大きさは數所にある。調査区の北東のあいう4・5グリッドあたりには小型の土坑と、大きいピットが集中している。内耳鍋片が多く出土している。

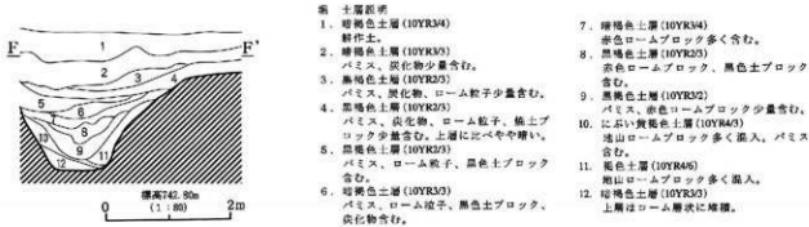
北西隅には一辺20cm前後の小型の方形ピットが等高線と平行して並んでいる。

おへく4~10グリッドは掘立柱建物とピット、土坑が最も多い。建物が集中していたのである。南側はき~こ13~16グリッド、こ~さ11~13グリッドに単独ピットが集中している。

## 5. 南堀と土壘・溝址

調査区の南端には堀が検出された。東西方向に13mを調査し、上幅2.8~2.88m、深さ1.2~1.6mを測る。断面逆台形の箱堀で、底面の幅は西に広くなり48~80cmを測る。

堀を覆っている第3・4層の黒褐色土 (10YR2/3) は炭化物・焼土ブロックを含む。土壘層の崩壊層とみられよう。やや西に寄ったG地点でとらえたセクションには土壘の痕跡がのこり、黒褐色土 (10YR2/3) の黒色土ブロックを含む土の上に、暗褐色土 (10YR3/4) を盛っている様子がわかる。この南堀の北は幅1mのテラスをもち、その内側は3m幅で遺構が検出されず、土壘であったと推測される。



第19図 南堀断面図

調査区の東側では削平され、高さはないが土塁の痕跡を残す土層が確認でき、黒褐色土・褐色土・暗褐色土を盛っている。北のCセクション地点で基底幅5.7mを測っている。

## 第2節 遺物

### 1. 陶磁器

中世の陶磁器で、船載品は1の青磁碗と2の白磁皿（15~16C）のみで、他は瀬戸の大窯製品である。灰釉の丸皿が11点、天目茶碗が2点実測された。大窯1の15C末~16C初頭と大窯2の16C前半の産である。これらの大窯製品は造構に伴うものではなく、調査区の北検出に多く、グリットでみると北側の東半域に集中するようである。また近世初頭17Cの瀬戸美濃の輪禿皿、近世末の瀬戸・美濃製品がある。

### 2. 内耳鍋・火鉢・土板

内耳鍋破片の出土は造構一覧表備考欄に示したようにかなりの造構数を数えるが、実測個体は9点で、法量のわかるものは3個体である。36・37・41の3個体は内耳が添付されておらず、36は残存からみて内耳の付かない鍋であろう。口径27~28cm、底径23cm前後、器高13.3~16.7cmを測る。同時期とみられる資料は大井城跡（黒岩城跡）にみられ、A II・A IIIに分類されているものと近いようである。黒岩城跡の廃絶時期が16C後半とされている。金井城跡（口径27.7~36cm、器高14.3~19.4cm）、榛名平遺跡（口径28.3~35.9cm、器高12.2~18.9cm）の資料に比べると口径、高さとともに小ぶりである。

火鉢はいずれも近世の所産とみられる。

内耳の体部を再利用した土板が2点出土する。

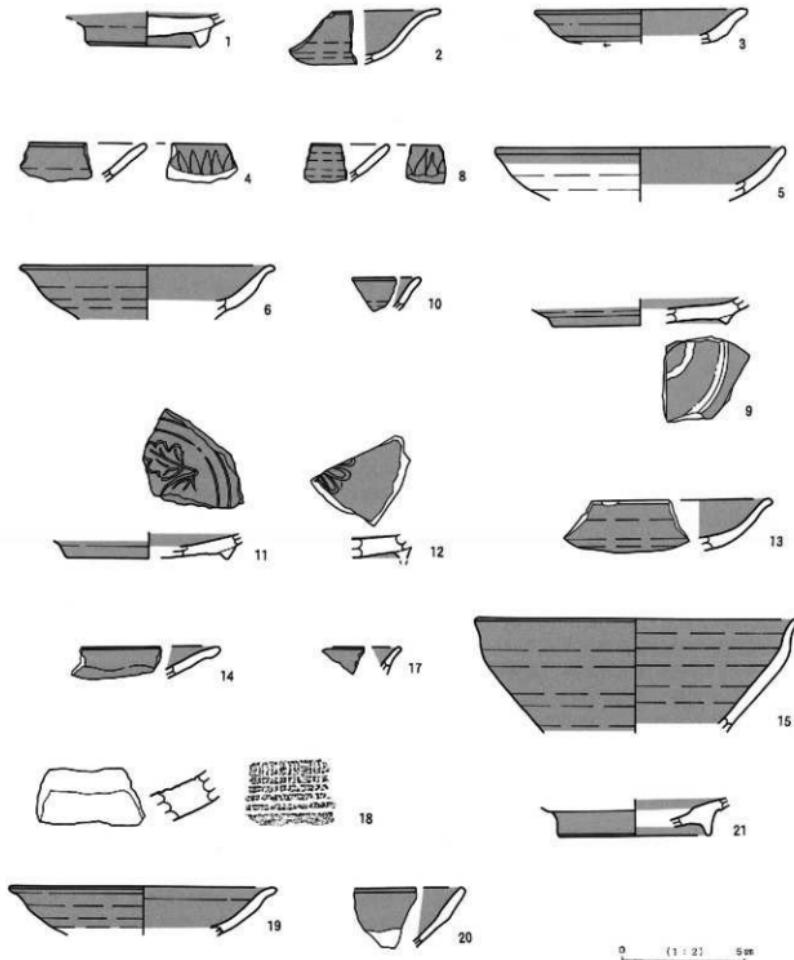
### 3. かわらけ

かわらけの実測資料は9点で7点が中世、2点は近世とみられる。中世のかわらけは口径8cm前後、器高2.0~2.4cmの小型品である。口縁下部が膨らみを持ち、口縁が端反に開く器形である。黒岩城跡で分類される、A 3（小型品、口径6.7~8.6cm、器高1.6~2.6cm）（ロクロ成形、底部回転糸切り、口縁下部で丸みをもって開き、口縁端部は短く引きだされるように外反する。）のかわらけと同様である。

近世のかわらけは口縁が薄く全体に内湾して外に開く器形である。

### 4. 金属製品

青銅製品と鉄製品がある。青銅製品は60柄縁、62金メッキのキャップ形の小型品、80鞘尻、86飾金具、91・94の煙管、95のベルトの金具がある。柄縁、鞘尻は刀の付属品で、D 60号土坑から出土した60の柄縁は刃渡は3.4cmを測る。野馬窟遺跡D 216（土坑の規模は1.17×1.0×0.44cm、長方形）

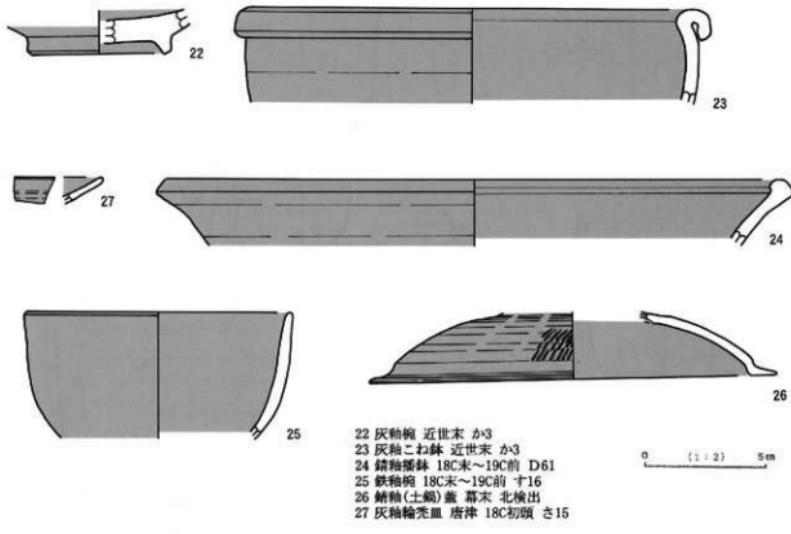


1 青磁 碗 龍泉窯 中世D65  
 2 白磁 盆 15C～16C 中国 北検出  
 3 灰釉腰折小皿 15C末～16C初頭 丸4  
 4 灰釉丸皿 16C前 う7  
 5 灰釉丸皿 16C前 う7  
 6 灰釉丸皿 15C末～16C初頭 二16  
 8 灰釉丸皿 16C前 北検出

9 灰釉丸皿 16C 北検出  
 10 灰釉丸皿 15C末～16C初頭 北カクラン  
 11 灰釉丸皿 16C前 北検出  
 12 灰釉丸皿 16C 北カクラン  
 13 灰釉丸皿 15C末～16C初頭 北検出  
 14 灰釉輪壳皿 檻戸美濃 17C前 南検出

15 天目茶碗 15C末～16C初頭 北検出  
 17 天目茶碗 15C末～16C 北  
 18 土師質攢鉢 在地中世 17C う8  
 19 鉄輪輪壳皿 17C前 北カクラン  
 20 鉄輪小桶 17C 南検出  
 21 灰釉輪壳皿 17C前 北検出

第20図 陶磁器 (1)



第21図 陶磁器（2）

から出土した小刀は長さ26.5cm刃幅3.0cm厚さ1.1cmである。（1910『野馬窟遺跡II・III』）60の柄縁の刀の長さは不明であるが同程度の刀幅の刀が想定される。また北東隅から出土した80の鞘尻は3.5cmの幅を測る。D61付近から出土した金メッキ製の86は板状で丸みをもつ表に彫金がなされた破片である。煙管の吸口は真鍮製か銅製で、近世～近代のものと思われ、長さ7.1cmを測る。

鉄製品は角釘、65毛抜、78・85刀子、鐵鎌、火打、角軸がある。最も多いのは角釘で、15点を数える。か4グリッドにあるピットの径19cm深さ37cmのP256からは角釘が7点まとまって出ている。鐵鎌は鎌身が三角形の92と盤箭の77がある。鎌身長が4cmと5.5cmを測る大型品である。81は鉈（かすがい）形の火打金具であろうか。

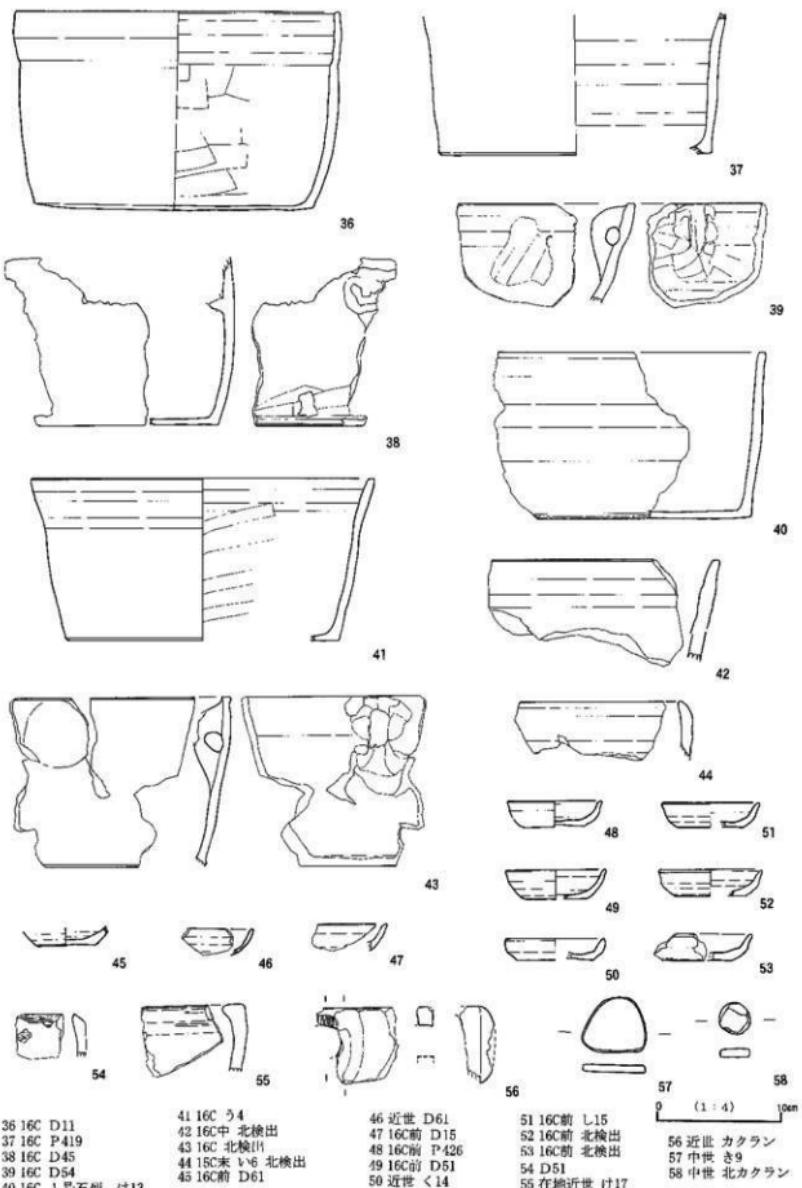
## 5. 古銭

渡来銭15枚と寛永通寶3枚がある。渡来銭は開元通宝（初鑄年845）唐銭、至道元寶（初鑄年995）～紹聖元寶（初鑄年1094）の北宋銭が8枚、洪武通寶（初鑄年1368）3枚と永樂通寶（1408）2枚の明銭がある。

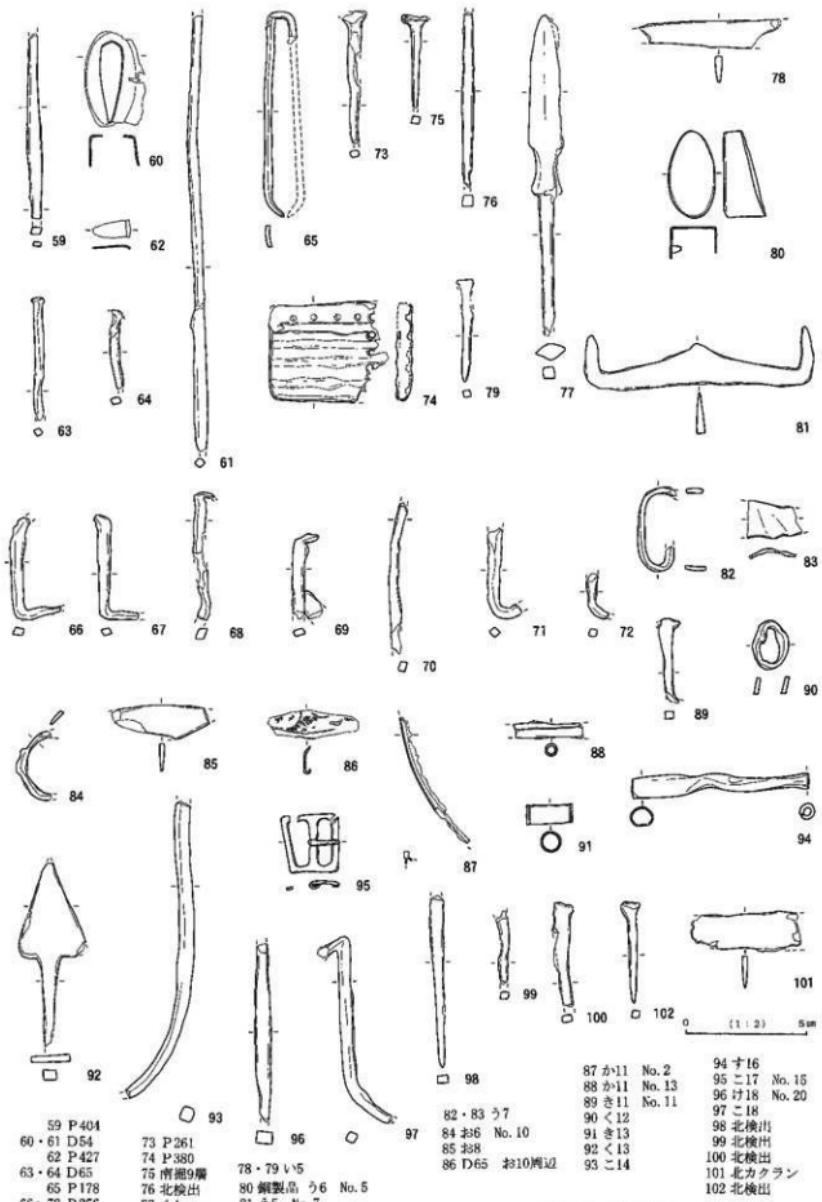
渡来銭は2カ所の集中しており、一つは北東隅であり、北宋銭が集中する。ピットと土坑群の東で土壘の西下にあたる。他は西の中央入り口にあり、石列が残っていた土壘の南地点である。こちらは明銭が出土している。

## 6. 石製品

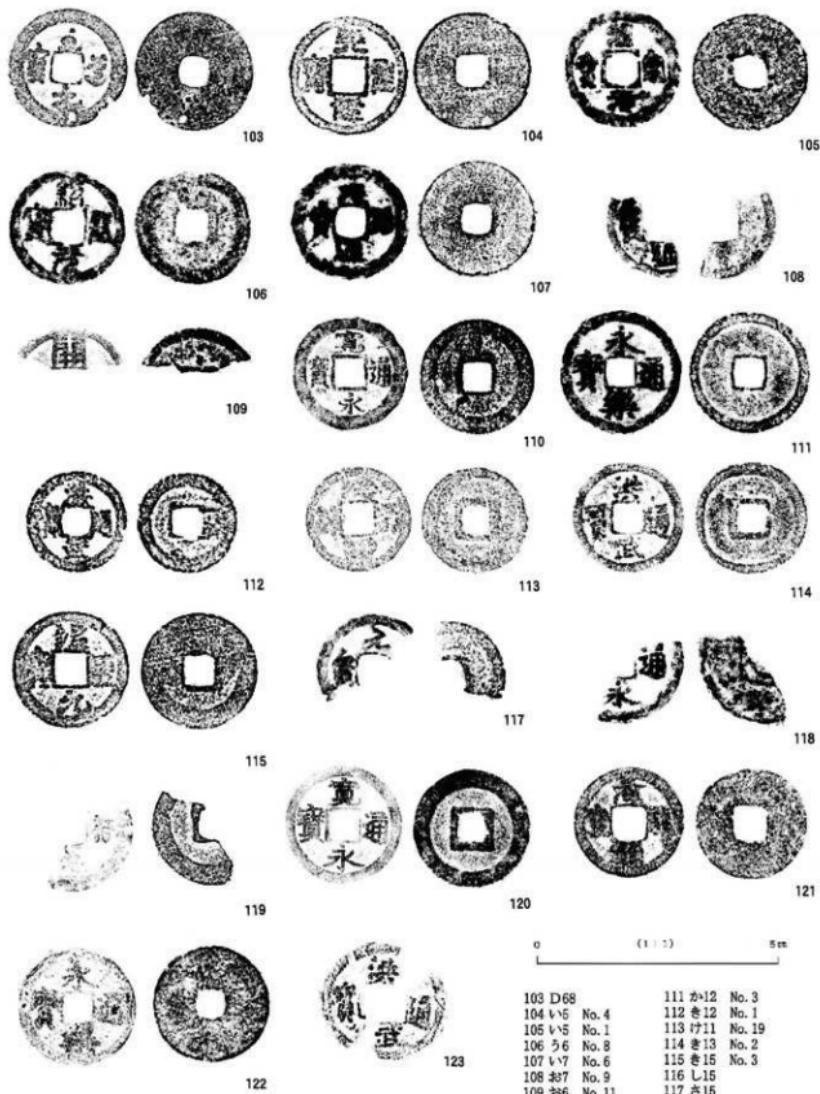
石製品は編物石、軽石製品、砥石、台石、スクレイバー、硯、茶臼、粉挽臼、五輪塔がある。打製石斧が1点みられた。136の硯は砥石に転用されている。141の砥石は刃物を研ぐというより、曲面のミガキに使用しているようである。石臼は茶臼4点、粉挽臼上臼3点、下臼3点がある。いずれも破碎品で、完形はない。石組、石列から出土し、製品としての出土状況はなく、石材として転用され



第22図 内耳鍋・火鉢・かわらけ・土板

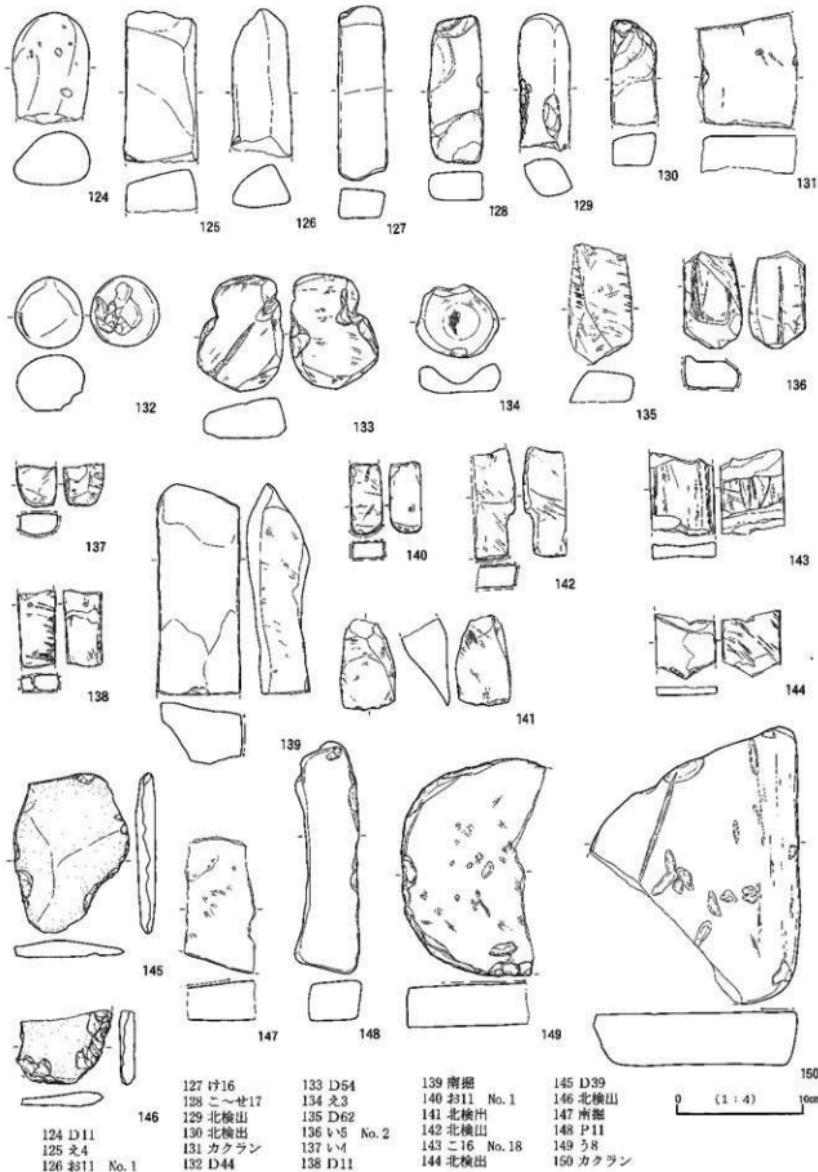


第23図 金属製品

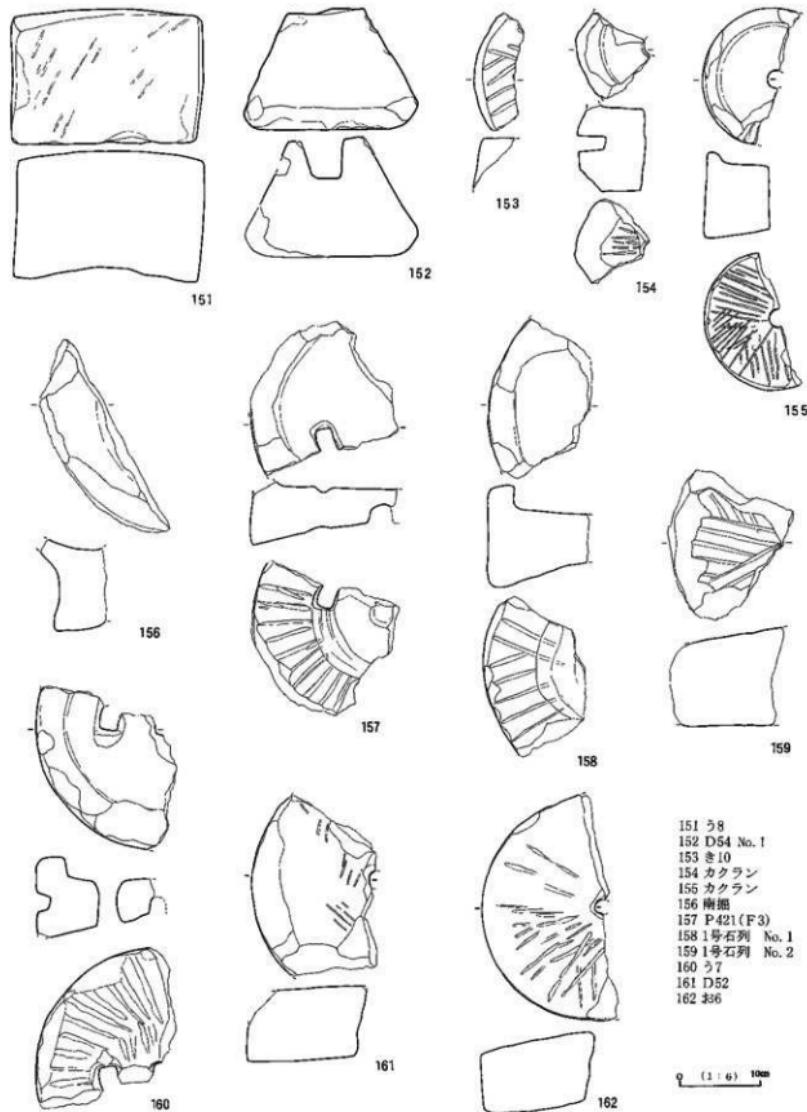


第24図 古銭

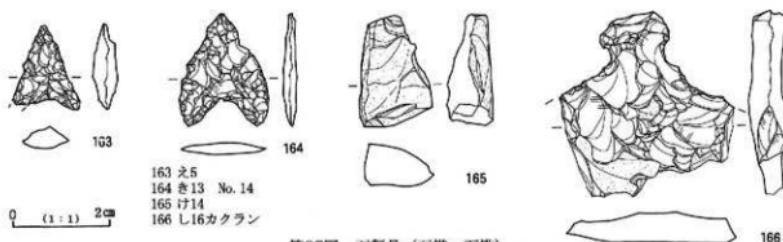
103 D68	111 か12	No. 3
104 V6	112 き12	No. 1
105 V5	113 け11	No. 19
106 う6	114 き13	No. 2
107 い7	115 き15	No. 3
108 え7	116 し15	
109 え6	117 さ15	
110 え11	118 す16	



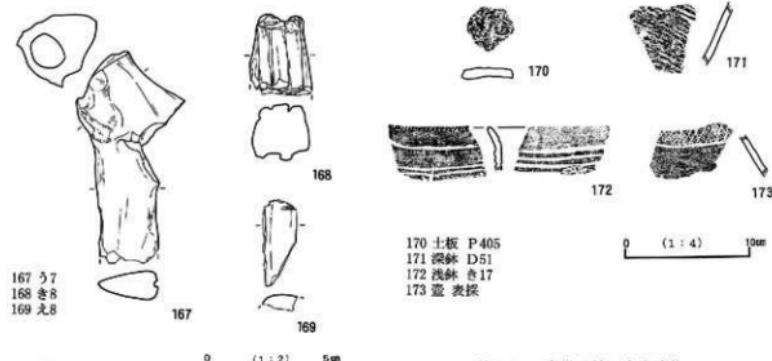
第25図 石製品（砥石・磨石・台石他）



第26図 石製品（五輪塔・石臼）



第27図 石製品（石鎌・石匙）



第29図 中世以前の出土遺物

ている。

五輪塔は火輪と地輪が出土している。

#### 7. 羽口

羽口の破片が3片攪乱より出土する。

#### 8. 骨

グリッドからウマかウシの骨と歯が出土する。耕作土からの出土なので分析はしなかった。

#### 9. 中世以前の遺物

縄文土器が3片、弥生時代後期の赤色塗彩の壺片、黒曜石製の石鎌・石匙が出土する。

## 第V章 まとめ

白岩城跡は平尾氏の居城と知られ、里古城ともよばれている。伝承では小県郡の依田氏が享徳元年（1452）に佐久に来て平尾氏を名乗ったとされている。当時の佐久では大井持光が永寿王丸を支持し、文安4年（1477）その永寿王丸が関東管領に補せられ、鎌倉公方足利成氏として復職。大井持光は佐久において大きな勢力を持ち、文明16年（1484）村上に大井城を焼かれるまでが大井氏の全盛期であった。

宝徳・享徳（1449～1954）年間小県の依田為頼は大井氏に侵され、大井氏の幕下となった。弟依田為泰は大井氏に従い佐久郡平尾村に移住し、「平尾」氏となった。村上に攻められ大井宗家が滅びた後も芦田の大井家の勢力下にいたようである。

天文12年（1543）武田春信が佐久に侵入、平尾氏は翌天文13年に降伏している。1559年には平尾から一時立ち退き松井田の客将となる。松井田城はその後陥落するが、許されて信玄に仕え、平尾に戻る。天正3年（1575）には平尾大社本殿の再建が平尾守芳によりなされている。（1991 胡桃沢）

天正10年（1582）武田と織田が滅亡した後、徳川家康が信濃國の大半を平定した。佐久郡では依田（芦田）信蕃（のぶしげ）が武田の配下から徳川氏に転じ、11月に岩村田城を攻め落としている。

（1993『佐久市志』）白岩城も『三河物語』に「平尾の屋敷城」と記述され、岩村田の城（黒岩城か）とともに平定されている。（1984『大井城関係文献資料集』）

依田信蕃の子康国は父の戦功により松平性を許され、小諸城主として佐久一郡を支配する。

天文18年（1590）小田原城の落城に伴い、家康の領国を北条の旧領である関東に移した。家康の配下である依田康国との子康信は武藏・上野国内に三万石を与えられ、群馬の藤岡城に移封された。平尾氏もこれに伴ったので、平尾の地を引き払ったのである。（1993『佐久市志』）白岩城の廃絶はこの時期に求められ、15世紀中頃から16世紀末の150年間、「平尾屋敷城」は存在したことになる。

ここで白岩城跡と同時期とみられる、黒岩城、北山寺遺跡と比較してみることにする。

白岩城跡Ⅲ 挖立柱建物址 8棟、竪穴状遺構 3棟、土坑45基、  
単独ピット426個

主な出土遺物

青磁碗 1点（龍泉窯 中世）

白磁皿 1点（15C末～16C）

瀬戸灰小皿（釉丸皿・縁皿） 11点（15C末～16C初頭・16C前半）

遺構に伴わない。グリットからみると北側の東半城から出土。

かわらけ 7点（16C前半） 他に破片は北検出とP238から20点、南検出2点と北に多い。

内耳鏡 9点 遺構内破片70点（北東隅・北の土坑群北検出に集中）（16C）

波来鏡 15枚 北宗鏡と銅鏡があり、最も新しいのは永楽通寶（初鋲年1408年）

南・北の東半城から出土

角釘 15点（P256 か4グリット）7点

鉄瓶 2点（く4・き13グリット）

柄縁 1点（D54. け13グリット）

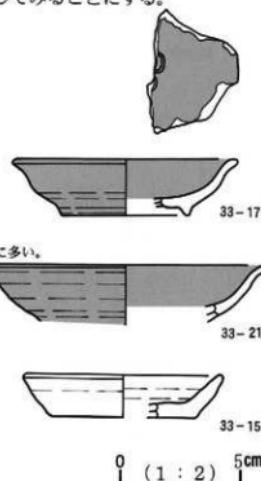
鞘尻 1点（う6グリット）

青銅製 游金製品（D65付近、お10グリット）

砥石 7点 北検出が多い。

茶臼 4点 再利用されている。

粉挽臼 6点 再利用されている。



第30図 『白岩城跡Ⅲ』  
瀬戸灰釉端反皿とかわらけ

五輪塔 2点

### 白岩城跡 I (1988年発掘調査) 本調査の東に接続する南北の堀

瀬戸灰釉小皿 (端反皿) 2点 (33-17・33-21) (大窯1 15C末~16C初頭)

かわらけ 1点 (33-15)

内耳鏡 4点 (33-29~32)

渡来鏡 1点 永来通寶 (初鉢年1408)

鉄製刀子 1点

羽口・鉄滓

粉挽臼 7点

石鑿鉢・石搗鉢 9点 (實心印塔軸用品あり)

五輪塔 2点

砥石

### 北山寺遺跡 (1988年発掘調査) 窓穴住居址6棟、 掘立柱建物址1棟、火葬墓1基、土坑50基、溝1

瀬戸灰釉小皿 (端反皿) 1点 瀬戸大窯 (16C前半)

かわらけ 2点

内耳 2点

太刀金具 足金物3点・資金1点

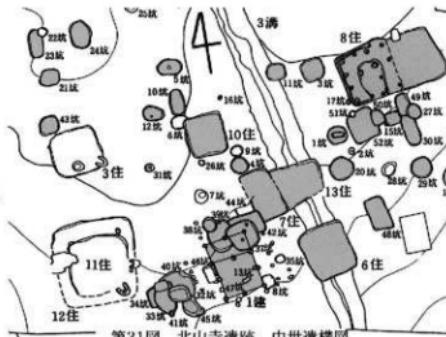
刀子 2点

渡来鏡 治平元寶 (1064)・洪武通寶 (1368)・宣德通寶 (1433)

粉挽臼 7点

茶臼 1点

砥石 2点



第31図 北山寺遺跡 中世遺構図

### 黒岩城跡 (1984年発掘調査) 窓穴状遺構54基、土坑285基、掘立柱建物址3棟、溝2本

青磁碗 36点 (14~16C) 青磁皿1点 (15C)、青白磁瓶子 1点 (13C)

白磁蓋 5点 (14C 2点・15C 3点)、白磁皿11点 (15C 3点・16C 8点)

染付鏡 1点 (15C)

天目茶碗 44点 (16C)

灰釉鏡 23点 (16C前半20点・16C後半3点)、灰釉香炉1点 (16C)、御皿1点 (15C)、灰釉獣瓶子1点 (15C)、

灰釉片口鉢1点 (14C前半)、灰釉折縁鉢 3点 (15C)、灰釉小鉢 (15C後半)、灰釉小鉢 3点 (15C)、

灰釉三足盤 6点 (15C)

山茶碗 5点 (14C)

灰釉小皿 (端反皿・丸皿) 18点 (16C前半)

鉄輪縁皿 1点 (16C前半)、鉄輪茶壺 1点 (15C)、鉄輪茶入 1点 (16C) 鉄輪德利 3点 (16C)

常滑窯 137点 (14C 6点・15C 4点・16C前半126点・16C後半1点)

常滑鐵瓶 2点 (16C)

中津川甕 15点 (14C)、中津川鉢 1点 (14C)

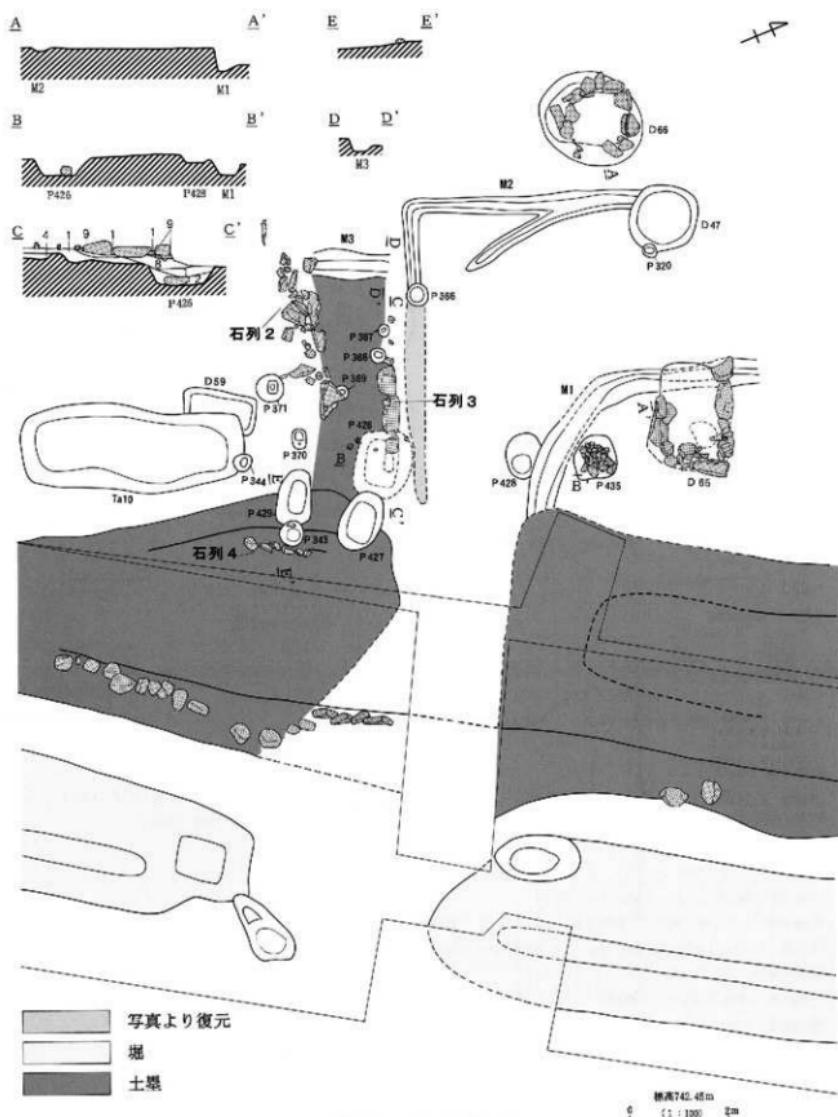
備前描鉢 1点 (16C)

かわらけ 70点 (16C)・香炉2点

内耳 11点

粉挽臼75点

茶臼 36点



第32図 白岩城跡Ⅲの虎口

石擂鉢・撫き臼 35点

砥石 48点

硯 5点

渡来鏡162枚 最も新しいもの 宣徳通寶 (1433)

小柄 6点

羽口・鉄滓

### 遺構

白岩城跡Ⅲの発掘調査による不十分ではあるが成果を述べる。掘立柱建物址が9棟あり、F1・F3・F8号掘立柱建物址は礎石を伴うこと。堅穴状造構は、大型土坑に分類されたものを加えても数が少ない。黒岩城跡との比較では堅穴状造構の少なさが明らかである。堅穴状造構が工房などの性格をもっているとすれば白岩城跡の今回の調査区では工房的なものはないようである。掘立柱建物址を中心とする建物群が主体である。

土壘と堀については南端に南堀が検出され、堀の上幅3m弱、北側にテラス（武者走）があって土壘が東西に延びて盛られていたようである。土壘の高まりは削平されてないが堀側にわずかに土壘の痕跡が残り、堀に平行して幅3mほどの帶状に土壘があったとみられ、遺構が検出されていない。

同じく東端にも土壘の痕跡を示す堆積がわずかに残り、基底幅で5mほどの土壘が南北に築かれている。

南から東にかけて土壘が囲み、東側中央に虎口が設けられている。第32図で想定を含めた虎口の図を作成したが、白岩城跡Ⅰで検出された土橋地点で土壘の途切れ（幅2~4mほど？）があり、その先の細い排水溝から推測するに、幅50cmの溝が西方向に延びて北に曲がっている。北に曲がったこのM1・M2の細溝は平行しており幅3mほどの間には遺構がなく北東隅に至って遺構群がある。これが平尾屋敷城の虎口であろう。

### 遺物

黒岩城跡の出土遺物と比較してみると、陶磁器・かわらけ・内耳錐・角釘・小柄・石臼・石擂鉢・砥石という構成は類似している。陶磁器類の多種と多量は黒岩城跡が圧倒しているが、瀬戸灰釉小皿・かわらけ・内耳の時代は黒岩城跡の16C代の遺物と類似している。そして、白岩城跡Ⅲ出土品のなかで、瀬戸灰釉小皿とかわらけは高い比率をもっており、館としての性格が窺われる。ただ、白岩城跡では貯蔵を目的としたであろう常滑製の甕がⅠ・Ⅲの調査で、一片も出土しておらず、この遺跡の時代・性格の特徴を語るものか今後の資料を待ちたい。

今回の発掘調査で、

1. 南堀とテラス、土壘の痕跡。
  2. 東側土壘の痕跡。
  3. 虎口が直線ではなく、ほぼ直角に曲がる。
  4. 掘立柱建物址が多い。
  5. 堅穴状造構が少なく工房的なものがない。
  6. 北に陶磁器・かわらけが多く出土しており、北西の掘立柱建物址群に関連し、館の中心部であろうか。上面からの検出遺構が多いことから、整地面からすると建て替えられた新しい建物群といえる。南の掘立柱建物址は下面から出土し、古い建物群とみられる。
  7. 館の築城時期が15世紀中頃、廃絶の時期が16世紀末とほぼ知れる状況のなかで、遺構・遺物ともに合致しており、このことから中世後期の土着武士、土豪の館の様子が推し量られる。
  8. 17Cの瀬戸・美濃製品が残っていることから一部は廃絶後も営みが継続したのであろう。
- わからなかつたこととして整地層が、上面と下面での新旧の遺構の帰属が明確でないことがある。明確な時期差を捉えられるはずであるが捉えることができなかつた。南側にあった建物が下面で北側

の礎石を持つ建物に移った可能性は指摘できる。

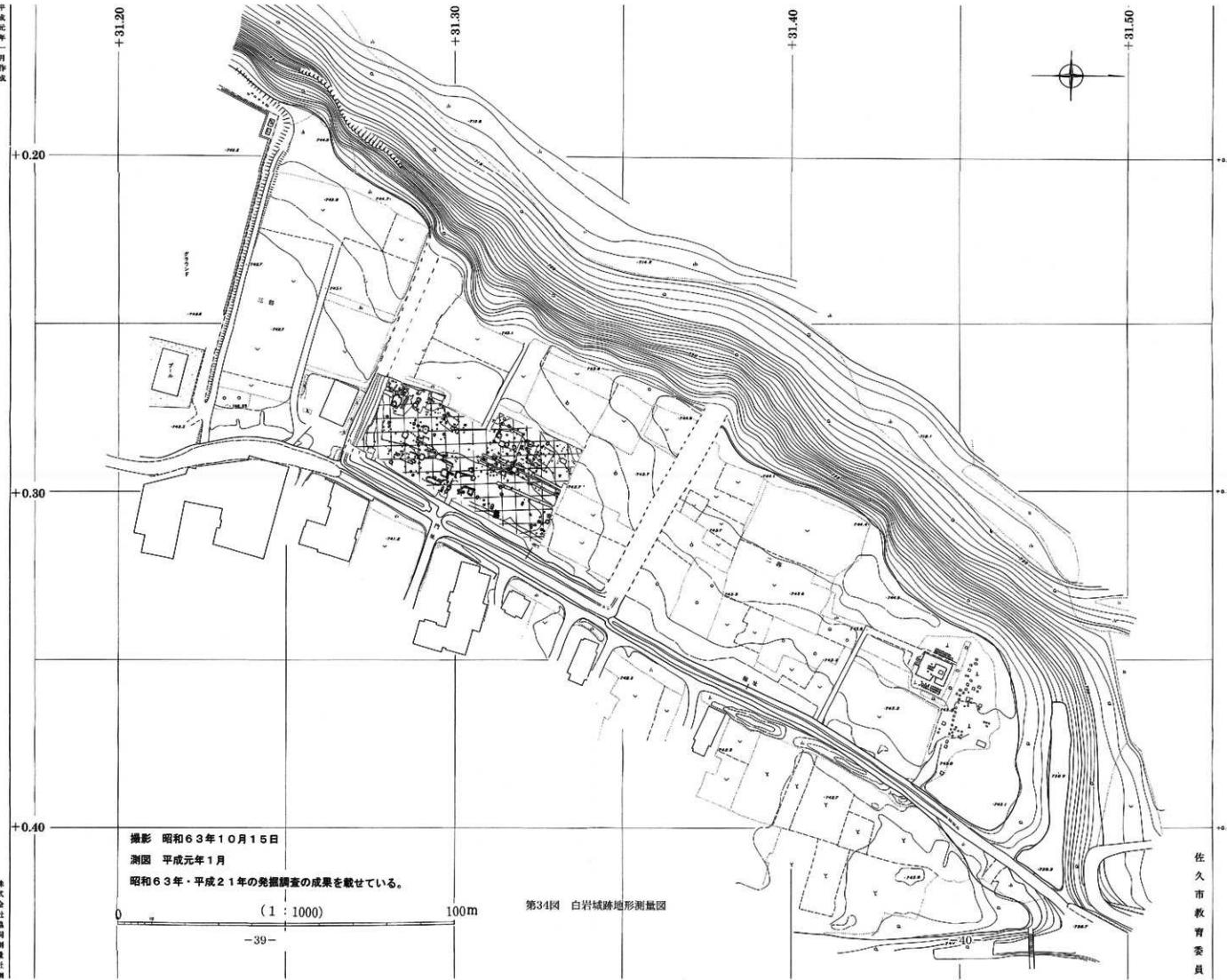
白岩城跡の主郭は東西54m（30間）×南北81m（45間）の長方形を呈する。その主郭の約1/4を調査したことにより、全容とまでいかないが文献や伝承との整合、また一部の様子が分かってきたようである。ただ、一部の調査で断定できないが、15C中頃の遺物が少ないとことから、平尾氏が頭初からこの地に館を構えたかは疑問の残るところである。

#### 引用参考文献

- 1983 長野県教育委員会『長野県の中世城館跡』
- 1986 佐久市教育委員会『大井城跡（黒岩城跡）』
- 1991 長野県埋蔵文化財センター『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2』  
－佐久市内その2－北山寺遺跡P352
- 1987 胡桃沢龍吉『平尾守芳とその一党』
- 1989 佐久市教育委員会『白岩城跡（里古城）』
- 1991 佐久埋蔵文化財センター『金井城跡』
- 瀬戸市歴史民俗資料館『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要X』
- 1992 佐久市志編纂委員会『佐久市史』歴史編（三）近世 P21
- 1993 佐久市志編纂委員会『佐久市史』歴史編（二）中世 P590
- 2010 佐久市教育委員会『野馬塚遺跡II・III』



第33図 自岩城跡Ⅲ出十一の主なる遺物の分有図



第1表 白岩城跡Ⅲ遺構一覧表

## 駄穴状遺構

遺構名	検出位置	時代	形態	規 模 (cm・m)		主導方位	カマド部	柱穴	備 考	(例) (特徴)
				南北長	東西長	壁高	面積			
Ta1	し15	中世	不整形	246	336	3~25	8.3	N~20°~E	—	D52と直通。P403に切られる。
Ta2~5	欠	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ta6	き11	中世	—	—	337	(62)	6~8	—	—	カクランに切られる。
Ta7~9	欠	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ta10	お12	中世	長方形	396	120	34	4.8	N~24°~E	—	D59、P344と断山不明。

## 獨立柱建物址

遺構名	検出位置	様式	柱行×梁間		柱行×柱間	梁間柱間	軸方位	柱穴個数	深さ(cm)	(例) (特徴)
			幅(m)	高(m)						
F 1	か5	側柱	2×1	6.4×3.2	3.2	3.2	N~30°~E	15	25~78	—
F 2	か4	側柱	2×1	4.0×2.48	2.0	2.48	N~58°~W	W	20~40	11~66
F 3	< 6	縦柱	3×2	7.2×5.6	2.6	2.0	3.16~2.4	E	33~38	24~78
F 4	け11	側柱	2×2	4.06×3.6	1.68	1.8	N~25°~	E	23~30	10~57
F 5	け13	側柱	1×1	1.8×1.6	1.8	1.6	N~15°~	E	26~40	8~68
F 6	き14	縦柱	2×2	4.8×3.88	2.4	1.94	N~65°~	W	22~34	20~80
F 7	か5	側柱	3×2+縦	7.4×4.8	2.0~1.4	2.4	N~69°~	W	20~48	5~80
F 8	か7	側柱	2×1	4.4×3.6	2.2	3.64	N~65°~	W	38~50	52~67
F 9	か9	側柱	1×1	1.96×1.6	1.96	1.6	N~60°~	W	18~22	6~29

## 溝址

遺構名	検出位置	全長(m)	幅(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備 考	(例) (特徴)
M 1	お9~お11	(6.00)	48~56	—	8~39	D65に切られ、P428を切る。	—
M 2	か10~か11	(6.04)	28~52	4~10	—	D47、P366に切られる。	—
M 3	か11	(1.56)	44~64	24~26	—	D69を切る。	—
M 4	<14	(2.76)	24~38	18~21	—	P361に切られ、D63を切る。	—
柵	け17~せ16	(12.55)	280~288	120~160	—	—	—

## 上坑

(残) (推定)

遺構名	突出位置	平面形	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	備考
D 1～D 3	欠						
D 4	し15	円形	96	90	48	N - 13° - E	
D 5～D 8	欠						
D 9	く13	圓丸長方形	98	56	43	N - 28° - E	カクランに切られ、P 400を切る。
D 10	き15	円形	105	96	53	N - 1° - W	
D 11	き8	長方形	136	58	28	N - 18° - E	カクランに切られ、D 45、P 297を切る。
D 12	え5	横円形	94	76	24	N - 73° - W	内耳片2
D 13	き5	-	(130)	116	14	N - 68° - W	カクランに切られる。
D 14	き5	-	129	(126)	16	N - 23° - E	カクランに切られる。
D 15	い5	横円形	100	62	17	N - 45° - W	内耳片16
D 16	欠						
D 17	く5	-	78	(72)	14	N - 25° - E	カクランに切られる。
D 18	く5	横円形	(112)	64	9	N - 53° - W	カクランに切られる。
D 19・20	欠						
D 21	く4	横円形	128	88	25	N - 34° - E	
D 22～D 25	欠						
D 26	く6	横円形	90	80	21	N - 73° - W	P 88・92・125に切られ、P 243を切る。
D 27・28	欠						
D 29	こ7	方形	78	74	13	N - 74° - W	
D 30～D 33	欠						
D 34	け11	長方形	122	90	29	N - 59° - W	
D 35	こ11	長方形	113	80	18	N - 26° - E	
D 36	く6	円形	113	106	28	N - 90°	P 168に切られる。
D 37	う4	円形	110	104	25	N - 90°	
D 38	欠						
D 39	う4	方形	118	112	42	N - 63° - W	P 425に切られる。
D 40	え6	長方形	103	56	12	N - 66° - W	鉄津328g
D 41	お8	横円形	98	84	9	N - 23° - E	
D 42	き3	長方形	182	128	28	N - 37° - E	
D 43	く5	長方形	170	150	20	N - 71° - W	P 401に切られる。

## 上坑

(残) (推定)

遺構名	検出位置	平面形	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	(残) (推定)
D44	え8	不整形	148	88	41	N - 74° - W	
D45	き8	長方形	136	122	10	N - 67° - W	D11, P297・319、カクランに切られる。
D46	お8	円形	112	106	35	N - 89° - W	P317に切られる。
D47	か10	円形	137	135	72	N - 29° - E	P320に切られ、M2を切る。
D48~D50	欠						
D51	く12	楕円形	248	180	76	N - 9° - W	P25に切られる。
D52	し15	長方形 +張り出し	144	130	51	N - 70° - W	Ta1と重複。
D53	さ14	円形	148	144	39	N - 0°	
D54	こ13	長方形	212	180	59	N - 65° - W	P13・406に切られる。
D55・56	欠						
D57	し13	円形	144	130	42	N - 17° - E	
D58	し14	円形	112	112	24	N - 27° - E	
D59	か12	長方形	142	88	80	N - 28° - E	Ta10と新旧不明。
D60	け7	長方形 +張り出し	170	148	81	N - 24° - E	
D61	く7	方形	174	162	69	N - 26° - E	P206に切られる。近世
D62	く7	長方形	154	104	44	N - 66° - W	P206に切られる。
D63	く13	長方形	192	164	50	N - 66° - W	M4に切られ、P325を切る。
D64	き14	長方形	144	94	25	N - 46° - E	
D65	お10	長方形	216	156	82	N - 66° - W	石組 M1を切る。鉄津17g
D66	か10	楕円形	212	188	42	N - 28° - E	石組
D67	欠						
D68	か6	方形	178	178	31	N - 30° - E	P123、カクランに切られる。
D69	か11	長方形	244	220	36	N - 29° - E	M3に切られる。
D70	け14	方形	176	170	47	N - 29° - E	
D71	き12	長方形	212	(160)	25	N - 30° - E	P376・402に切られ、P377を切る。
D72	さ10	長方形	81	67	30	N - 30° - E	石組
石組1	う8	長方形	232	212	-	N - 74° - W	石組
石列1	け13	-	208	59	-	N - 24° - E	
石列2	か11	-	430	115	-	N - 75° - W	
石列3	か11	-	195	35	-	N - 70° - W	
石列4	お12	-	140	28	-	N - 31° - E	

## 単独ピット

(残) (推定)

地名	土質	出土位置 長径 短径	平面形 面積	覆土	備考	出土位置 長径 短径			平面形 面積	覆土	備考		
						達綱名	出	長	幅	相	相		
P1	16	25 21 16	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		T47	< 3	26	20	3	長方形	暗褐色土層(10YR3/4) カクランに切られる。	
P2	< 15	34 27 15	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P48	< 3	24	22	35	方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P3	14 14 20	18 13	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	D70を切る。	P49	か7	50	47	33	円形	暗褐色土層(10YR2/3) (F8)	
P4	14 14 24	24 20	方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P50	か4	37	31	32	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P5	14 14 29	24 20	長方形	にじる暗褐色土層 (10YR4/3)		P51	< 3	26	20	11	棒円形	暗褐色土層(10YR2/3) (F2)	
P6	14 14 23	21 15	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P52	< 4	21	21	11	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P7	< 11	22 20 56	円形	暗褐色土層(10YR3/2)		P53	j5	4	32	28	17	橢円形	暗褐色土層(10YR2/2)
P8	15 38	36 22	円形	暗褐色土層(10YR2/3)		P54	お7	(34)	16	16	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P9	16 27	24 6	長方形	褐色土層(10YR4/4)		P55	お5	26	26	27	方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P10	14 14 34	23 32	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	内耳1	P56	< 3	42	40	18	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P11	13 34	24 18	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P57	か1	27	26	34	方形	暗褐色土層(10YR2/2) (F2)	
P12	12 38	28 7	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P58	か4	(20)	(21)	18	方形	暗褐色土層(10YR2/3) カクランに切られる。	
P13	13 40	26 14	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	D54を切る。	P59	お5	30	29	60	方形	暗褐色土層(10YR2/2) 内耳1	
P14	16 34	24 8	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P60	お5	45	33	33	橢円形	暗褐色土層(10YR2/2) カクランに切られる。	
P15	16 75	38 9	長方形	褐色土層(10YR4/6)		P61	さ4	35	30	22	長方形	暗褐色土層(10YR2/3) (F2)	
P16	次					P62	< 4	53	36	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P17	L13	27 27 8	方形	暗褐色土層(10YR3/4)	カクランに切られる。	P63	< 6	26	21	31	長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P18	14 36	27 19	長方形	褐色土層(10YR4/4)		P64	お5	35	30	68	円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P19	18 18	38 28	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P65	お5	30	28	25	方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P20	L13 30	23 9	長方形	—		P66	か5	48	34	7	橢円形	暗褐色土層(10YR2/3) (F1) P90に切られる。	
P21	12 24	34 32	方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P67	き6	61	58	86	橢円形	1番暗褐色土層(10YR2/3) 2番暗褐色土層(10YR2/3) (F1)	
P22	L14	37 30	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P68	き5	46	40	28	長方形	暗褐色土層(10YR3/4) (F2) P25を切る。	
P23	L14	39 26	19	長方形	—	P69	か5	54	38	70	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P24	14 46	26 16	椭円形	褐色土層(10YR4/4)		P70	お5	20	18	36	長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P25	< 12	40 32	33 椭円形	褐色土層(10YR4/4)	D51を切る。	P71	か5	34	22	35	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P26	< 13	20 20	7	方形	褐色土層(10YR4/6)	P72	< 5	34	33	34	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P27	5 13	32 31	23 長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。	P73	お6	26	25	26	円形	暗褐色土層(10YR2/3) (F1)	
P28	17 22	27 25	11 方形	暗褐色土層(10YR3/3)	F407を切る。	P74	お6	20	17	29	長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P29	15 39	24 54	橢円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P75	き5	40	36	28	方形	暗褐色土層(10YR2/2) (F2) P253-254を切る。	
P30	13 13	31 27	47 長方形	暗褐色土層(10YR2/2)		P76	か5	28	28	64	方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P31	さ2	18 17	47 方形	暗褐色土層(10YR2/3)		P77	き4	28	23	17	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F2)	
P32	か7	46 30	43 楕円形	暗褐色土層(10YR2/2)		P78	け6	28	24	39	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P33	か9	53 53	72 円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P79	き5	29	25	5	橢円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P34	< 8	26 24	9 方形	暗褐色土層(10YR2/2)		P80	き5	34	31	38	円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F7)	
P35	< 2	22 22	46 方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P81	し2	58	58	48	円形	1番暗褐色土層(10YR2/1) 2番暗褐色土層(10YR2/3) (F7)	
P36	き7	33 26	9 長方形	—		P82	け6	40	28	72	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P37	か6	22 20	36 方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P83	き5	40	39	19	円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P38	か6	24 22	47 方形	暗褐色土層(10YR3/3)		P84	< 5	32	29	26	円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P39	か6	15 16	26 長方形	暗褐色土層(10YR2/2)		P85	き5	58	35	74	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P40	か6	34 21	31 長方形	暗褐色土層(10YR2/2)	P41と新旧不明。	P86	< 5	39	38	35	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P41	か6	29 25	53 円形	暗褐色土層(10YR3/4)	P40と新旧不明。	P87	< 6	43	42	64	円形	暗褐色土層(10YR3/1)	
P42	か2	22 16	6 長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P88	< 6	24	20	13	長方形	暗褐色土層(10YR3/3) D26、P92を切る。	
P43	< 6	45 37	5 長方形	暗褐色土層(10YR3/4) (F7)		P89	さ14	21	15	18	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P44	か4	30 25	24 長方形	暗褐色土層(10YR3/4)		P90	か5	44	32	26	橢円形	暗褐色土層(10YR3/3) P66を切る。	
P45	か2	27 22	17 棒円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P91	き6	19	19	26	方形	暗褐色土層(10YR2/2) 内耳1	
P46	お7	66 67	37 楕円形	黒褐色土層(10YR2/2)	カクランに切られる。	P92	< 6	36	28	63	—	黒褐色土層(10YR3/2) P88に切られ。D26を切る。	

## 単独ピット

(残) (推定)

遺物名	出土位置	平面形	種類	備考	遺物名	出土位置	平面形	種類	備考
目次番号	地層	経年			目次番号	地層	経年		
P93	116	26	22	25	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P139 オ 5 (27) (21) 12 長方形 黒褐色土層(10YR2/3) カクランに切られる。
P94	116	27	27	17	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P140 オ 4 30 28 14 方形 細褐色土層(10YR3/3)
P95	115	27	26	22	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P141 オ 6 67 65 15 横円形 細褐色土層(10YR3/4) 内耳
P96	116	25	23	13	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P142 オ 3 62 51 22 横円形 暗褐色土層(10YR3/4)
P97	116	18	16	13	—	暗褐色土層(10YR3/4)	P98に切られる。		P143 オ 6 27 23 9 長方形 細褐色土層(10YR3/4)
P98	116	23	20	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P97を切る。		P144 < 3 30 26 45 横円形 黒褐色土層(10YR2/3)
P99	115	18	16	14	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)			P145 < 2 30 24 11 長方形 細褐色土層(10YR3/4)
P100	114	30	25	28	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P146 < 3 21 19 38 方形 黑褐色土層(10YR2/3)
P101	113	22	20	19	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P147 オ 5 27 22 16 長方形 黑褐色土層(10YR2/3) カクランに切られる。
P102	114	19	15	18	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P148 欠
P103	さ 13	29	20	8	長方形	黒褐色土層(10YR2/2)			P149 さ 2 22 18 17 横円形 暗褐色土層(10YR3/3)
P104	さ 13	20	19	—	方形	黒褐色土層(10YR2/3)			P150 さ 2 18 17 3 方形 細褐色土層(10YR3/3)
P105	112	23	23	12	方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P151 さ 2 18 14 27 長方形 —
P106	か 10	33	30	11	刀形	暗褐色土層(10YR3/3)			P152 さ 3 22 22 9 方形 成褐色土層(10YR3/4)
P107	か 10	20	18	8	長方形	黒褐色土層(10YR2/3) (F9)			P153 さ 7 53 45 62 横円形 暗褐色土層(10YR3/3) P148、カクランに切られる。
P108	か 9	24	19	6	長方形	暗褐色土層(10YR2/4)	(F9)		P154 け 6 63 42 27 長方形 黑褐色土層(10YR3/3)
P109	か 9	34	22	29	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F9)		P155 け 6 30 29 7 方形 細褐色土層(10YR3/4)
P110	き 9	24	20	9	長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	(F9)		P156 け 6 30 28 20 方形 暗褐色土層(10YR3/3)
P111	き 9	30	28	8	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P157 こ 7 33 28 27 横円形 黑褐色土層(10YR2/3)
P112	き 9	28	22	41	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)			P158 こ 7 34 26 27 長方形 黑褐色土層(10YR2/3)
P113	き 9	25	24	5	刀形	黒褐色土層(10YR2/2)			P159 こ 7 22 20 13 方形 暗褐色土層(10YR3/3)
P114	欠								P160 こ 7 32 22 20 横円形 黑褐色土層(10YR2/3)
P115	か 8	37	22	81	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P310を切る。孰?		P161 け 7 30 28 12 方形 黑褐色土層(10YR2/3)
P116	か 8	27	27	10	方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P162 け 6 67 48 42 横円形 I.暗褐色土層(10YR2/3) と暗褐色土層(10YR3/4) (F9)
P117	き 8	61	50	67	非標準	暗褐色土層(10YR3/3) (F8)P437を切る。			P163 欠
P118	き 8	34	22	58	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)			P164 け 8 42 38 47 横円形 黑褐色土層(10YR2/3)
P119	か 7	34	20	12	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P165 け 8 34 31 25 円形 黑褐色土層(10YR2/3)
P120	く 8	34	30	58	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P166 < 8 28 26 64 円形 細褐色土層(10YR3/3)
P121	き 7	30	20	27	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)			P167 け 7 41 35 51 横円形 細褐色土層(10YR3/3)
P122	か 7	38	32	10	長方形	にぶく黒褐色土層(10YR3/4)	カクランに切られる。		P168 < 7 40 36 44 円形 墓褐色土層(10YR3/4) D36を切る。
P123	か 7	52	51	24	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	D68を切る。		P169 < 7 17 14 33 横円形 墓褐色土層(10YR3/3)
P124	き 7	38	34	73	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P283を切る。		P170 < 7 30 30 52 横円形 墓褐色土層(10YR3/3)
P125	< 6	39	36	46	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	D26を切る。		P171 さ 12 28 25 26 方形 墓褐色土層(10YR2/3)
P126	< 5	36	32	34	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P272を切る。		P172 さ 12 52 51 16 円形 墓褐色土層(10YR3/4)
P127	< 6	38	35	67	方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P173 こ 11 21 21 27 円形 細褐色土層(10YR3/3)
P128	< 6	30	26	7	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P174 こ 11 26 23 58 長方形 墓褐色土層(10YR3/3)
P129	き 4	24	18	17	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P175 こ 12 38 34 47 円形 墓褐色土層(10YR3/3) 一辺25cmの方形柱窓あり。
P130	か 6	48	48	9	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F1)		P176 こ 11 45 41 41 円形 墓褐色土層(10YR3/3)
P131	か 6	22	16	35	長方形	暗褐色土層(10YR2/3)			P177 こ 11 34 39 50 横円形 墓褐色土層(10YR3/4) (F4)
P132	か 5	34	22	58	方形	暗褐色土層(10YR2/3)			P178 さ 12 24 23 47 方形 墓褐色土層(10YR3/4)
P133	か 5	34	28	73	横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	(F7)		P179 さ 12 56 50 73 横円形 墓褐色土層(10YR3/3)
P134	き 5	27	23	23	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F2)		P180 さ 12 22 18 23 横円形 墓褐色土層(10YR3/3) 内41
P135	< 4	37	33	14	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)			P181 こ 12 60 58 15 円形 墓褐色土層(10YR3/4)
P136	< 4	41	40	67	円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F2)		P182 こ 10 33 29 13 横円形 墓褐色土層(10YR3/4)
P137	お 5	36	30	38	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P183 こ 11 37 22 67 横円形 墓褐色土層(10YR3/3)
P138	お 5	23	22	29	方形	暗褐色土層(10YR3/3)			P184 こ 11 33 28 41 長方形 墓褐色土層(10YR3/4)

## 単独ピット

(残) (推定)

連番名	土性別	出上位置	平面形	種 々	施 工	連番名	土性別	出上位置	平面形	種 々	施 工
P185	二11	24	23	23 方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P230	丸3	43	32	67 正方形	黒褐色土層(10YR2/3)
P186	二11	23	23	33 方形	暗褐色土層(10YR3/3) (F4)	P231	う4	53	50	14 円形	暗褐色土層(10YR3/4) 内耳1
P187	二11	20	17	20 正方形	暗褐色土層(10YR3/3) P210を切る。	P232	う5	50	38	48 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P188	二11	34	32	45 円形	暗褐色土層(10YR3/4) (F4)	P233	う5	103	65	25 横円形	暗褐色土層(10YR3/4)
P189	三12	24	23	8 方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P234	う5	75	55	27 横円形	暗褐色土層(10YR3/4)
P190	三11	25	24	35 方形	暗褐色土層(10YR3/4) (F4)P203を切る。	P235	い5	65	60	31 円形	暗褐色土層(10YR3/4)
P191	二12	52	45	15 正方形	暗褐色土層(10YR3/4) (F4)	P236	い5	35	30	44 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P192	二12	19	19	46 方形	暗褐色土層(10YR2/3)	P237	い5	70	44	12 横円形	暗褐色土層(10YR3/4)
P193	三12	47	40	40 正方形	暗褐色土層(10YR2/3)	P238	い4	55	50	16 円形	暗褐色土層(10YR3/4) かわらけ 16℃削
P194	二11	22	22	48 正方形	暗褐色土層(10YR3/4)	P239	か5	50	38	53 横円形	黒褐色土層(10YR2/3) F438を切る。
P195	三11	52	32	43 横円形	褐色土層(10YR4/4)	P240	欠				
P196	二12	36	27	39 円形	褐色土層(10YR4/4) (F4)	P241	い6	40	35	80 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P197	二12	46	41	57 横円形	暗褐色土層(10YR2/3) (F4)	P242	い6	50	40	61 丸方	暗褐色土層(10YR3/3) (F3)
P198	二12	24	23	41 方形	暗褐色土層(10YR3/3)	P243	く6	44	40	50 円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F7)D26に切られる。
P199	三11	24	19	36 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P244	え8	50	48	30 方形	暗褐色土層(10YR3/3)
P200	二12	34	20	51 丸方	暗褐色土層(10YR2/3)	P245	き9	100	83	30 横円形	褐色土層(10YR4/6)
P201	二10	22	22	58 方形	暗褐色土層(10YR2/3)	P246	え9	60	42	66 横円形	1.暗褐色土層(10YR2/2) 2.褐色土層(10YR4/6) 3.暗褐色土層(10YR3/4)
P202	三11	20	18	10 丸方	黒褐色土層(10YR2/3)	P247	え9	80	63	24 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P203	三11	52	50	10 一	褐色土層(10YR4/4) (F4)P190に切られる。	P248	く4	20	18	14 円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F2)
P204	二8	44	34	56 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P249	く4	25	25	14 正方形	暗褐色土層(10YR3/3)
P205	け8	66	66	72 円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.褐色土層(10YR1/4) 3.暗褐色土層(10YR3/4) (F3)	P250	く4	30	20	11 丸方	暗褐色土層(10YR3/3)
P206	く7	68	59	58 横円形	1.暗褐色土層(10YR3/3) 2.褐色土層(10YR4/4) (F3)D61・62を切る。	P251	き5	30	15	24 正方形	暗褐色土層(10YR3/4)
P207	け7	55	42	59 横円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F3)	P252	き5	28	26	20 円形	暗褐色土層(10YR3/3) F68に切られる。
P208	け7	66	49	60 横円形	暗褐色土層(10YR3/3) (F3)	P253	き5	23	23	33 円形	暗褐色土層(10YR3/3) F75に切られる。
P209	け8	33	24	38 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P254	き5	18	18	32 円形	暗褐色土層(10YR3/3) F75に切られる。
P210	二11	33	30	58 方形	暗褐色土層(10YR3/4) P187に切られる。	P255	か5	30	30	62 円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P211	二12	39	30	51 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P256	か4	19	18	37 円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P212	二11	25	25	41 円形	黒褐色土層(10YR3/3)	P257	欠				
P213	か3	40	38	50 円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P258	お6	33	30	29 円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P214	か2	33	20	30 正方形	暗褐色土層(10YR2/3)	P259	お7	25	23	32 円形	暗褐色土層(10YR2/3)
P215	か3	20	18	15 方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P260	お7	40	33	25 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P216	き2	25	21	5 良方	黒褐色土層(10YR2/3) F399に切られる。	P261	お7	28	25	55 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P217	き3	20	20	29 円形	暗褐色土層(10YR2/3)	P262	か7	25	18	21 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P218	き3	30	20	7 円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P263	か7	45	40	26 正方形	暗褐色土層(10YR3/4)
P219	き3	20	18	15 方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P264	か5	43	40	62 円形	暗褐色土層(10YR3/3)
P220	き3	20	18	48 方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P265	き5	33	33	60 円形	黒褐色土層(10YR2/3) (F7)
P221	き3	23	18	17 良方	黒褐色土層(10YR2/3)	P266	き5	45	38	66 正方形	暗褐色土層(10YR3/3) (F2)
P222	き1	35	30	39 正方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P267	き5	18	15	23 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P223	き4	35	30	32 良方	黒褐色土層(10YR2/3) (F2)	P268	く5	30	20	10 良方	暗褐色土層(10YR2/3)
P224	く5	55	48	17 横円形	黒褐色土層(10YR2/3) (F2)	P269	く5	25	23	12 円形	黒褐色土層(10YR2/3) (F7)
P225	く5	40	38	72 方形	黒褐色土層(10YR2/3) (F2)	P270	き6	28	20	19 横円形	暗褐色土層(10YR2/3)
P226	け6	43	33	66 正方形	暗褐色土層(10YR3/4) (F3-7)	P271	き6	18	13	29 良方	黒褐色土層(10YR2/3)
P227	き5	30	23	19 横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	P272	く6	27	25	13 円形	黒褐色土層(10YR2/3) F126に切られる。
P228	お4	40	38	112 円形	暗褐色土層(10YR2/3)	P273	く6	25	23	16 円形	黒褐色土層(10YR2/3)
P229	お4	85	85	37 円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P274	く6	52	36	38 横円形	暗褐色土層(10YR2/3)

## 単独ピット

(例) (推定)

測線名	出土地番	地質	地質	土質	出土地番	地質	地質	土質	備考			
	番号	組合	組合	類別	番号	組合	組合	類別	備考			
P275	< 6	48	48	58	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F3)	P321	か13 30 20 66	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P276	< 6	35	33	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P322	さ14 33 24 16	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P277	各 6	40	42	42	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P323	さ14 24 22 36	円形	黒褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P278	き 6	45	35	80	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F7)	P324	き13 68 55 26	横円形	黒褐色土層(10YR3/3)	
P279	き 6	26	25	13	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P325	< 14 50 35 16	-	黒褐色土層(10YR3/3)	D83に切られる。
P280	欠							P326	さ14 34 24 56	長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P281	き 7	28	23	9	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P327	< 14 50 48 12	方形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P282	き 7	48	38	60	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)	P328	< 14 34 30 68	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P283	き 7	38	35	36	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	△124に切られる。	P329	< 14 30 28 59	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P284	< 7	61	50	43	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P330	< 15 24 22 14	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P285	き 7	30	30	33	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P331	< 15 26 22 20	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F6)
P286	欠							P332	< 15 33 30 28	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P287	さ 8	44	40	58	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)	P333	< 15 42 40 64	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P288	< 8	28	25	23	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P334	< 15 20 18 24	方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P289	< 8	58	38	2	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P335	< 15 45 25 59	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P290	欠							P336	< 16 40 29 58	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P291	< 8	35	33	23	円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P337	< 16 58 46 28	横円形	黒褐色土層(10YR3/3)	
P292	< 9	33	25	33	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P338	< 16 38 36 47	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P293	< 8	50	45	61	方形容	1. 黒褐色土層(10YR2/3) 2. 暗褐色土層(10YR2/4)		P339	< 15 33 33 43	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P294	き 9	130	65	58	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)	△441に切られる。	P340	< 16 18 18 20	方形容	暗褐色土層(10YR3/4)	
P295	き 9	25	15	41	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P341	< 16 33 39 69	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P296	か 9	35	28	59	長方形	黒褐色土層(10YR2/4)		P342	4717 40 35 119	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	
P297	き 8	23	20	43	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D11に切られ、D45を切る。	P343	4612 50 50 84	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	P429を切る。
P298	き 8	40	25	40	方形容	黒褐色土層(10YR2/4)		P344	か12 38 35 56	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) 2. 暗褐色土層(10YR2/4)	Ta10と新Ⅱ不明。
P299	き 8	28	25	48	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P345	か13 30 30 55	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P300	き 8	30	18	21	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)	P301を切る。	P346	か13 28 28 43	円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P301	き 8	18	10	33	-	黒褐色土層(10YR2/3)	P300に切られる。	P347	か14 50 35 59	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P302	き 8	30	25	44	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P348	か14 30 30 38	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	
P303	き 8	25	25	46	方形容	黒褐色土層(10YR2/3)		P349	か14 75 63 38	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P304	き 8	55	58	21	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P350	か15 68 56 52	横円形	-	
P305	き 8	90	70	13	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)		P351	き15 35 33 105	円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P306	き 8	28	25	40	方形容	暗褐色土層(10YR3/3)		P352	< 15 46 40 74	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F6)
P307	き 8	53	45	6	方形容	黒褐色土層(10YR2/3)		P353	か15 30 25 53	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P308	か 8	38	38	45	円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P354	< 15 40 30 39	長方形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P309	か 8	63	45	56	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	(F8)	P355	か15 30 25 79	横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P310	か 8	45	43	68	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3) 2. 暗褐色土層(10YR4/0)	△115に切られる。内算1	P356	< 14 32 28 61	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P311	か 8	43	38	39	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)		P357	< 15 38 30 45	横円形	暗褐色土層(10YR3/4)	
P312	か 8	30	28	32	方形容	黒褐色土層(10YR2/3)		P358	< 14 35 32 52	方形容	暗褐色土層(10YR3/3)	
P313	か 8	40	25	19	長方形	黒褐色土層(10YR2/3)		P359	< 14 32 26 80	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F6)
P314	か 7	45	35	33	横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P315に切られる。	P360	< 14 38 31 92	横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P315	か 7	28	15	28	-	暗褐色土層(10YR2/3)	P314を切る。	P361	< 14 33 33 89	方形容	-	M4を切る。
P316	か 7	45	45	52	円形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F8)	P362	け14 48 36 8	横円形	鶏色土層(10YR4/4)	
P317	か 8	45	38	39	横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	D16を切る。	P363	< 14 45 26 -	- 長方形	暗褐色土層(10YR2/3)	
P318	い 5	83	73	32	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)		P364	か14 18 18 49	方形容	暗褐色土層(10YR3/3)	
P319	< 8	18	16	22	横円形	黒褐色土層(10YR2/3)	D45を切る。	P365	欠			
P320	か10	30	23	11	横円形		D47を切る。	P366	か13 45 45 28	円形	黒褐色土層(10YR2/3)	M2を切る。

(残) (推定)

## 単独ピット

地番名	北緯度	東経度	平面形	種類	備考	地番名	北緯度	東経度	平面形	種類	備考
P367 か11 23 23 31 円形	—					P412 欠	—				
P368 か11 30 30 74 円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P413 い5 76 60 18 横円形	灰褐色土層(10YR4/2)				
P369 か11 30 28 78 円形	—					P414 か3 66 66 16 な直形	暗褐色土層(10YR3/1)				
P370 か12 38 28 55 長方形	暗褐色土層(10YR3/3)					P415 か6 80 72 27 円形	1.褐色土層(10YR4/6) 2.墨色土層(10YR2/2)				
P371 か12 55 55 66 円形	暗褐色土層(10YR3/4)					P416 か7 72 620 11 —	暗褐色土層(10YR4/3)				(P1)カクランに切られる。 P163を切る。
P372 き11 28 25 25 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P417 き7 60 48 34 横円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.墨色土層(10YR2/2) 3.褐色土層(10YR2/3)	(F7)P418~434を切る。			
P373 き11 28 24 54 長方形	黒褐色土層(10YR2/3)					P418 き7 88 86 26 円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.墨色土層(10YR2/2)	P417に切られる。			
P374 欠						P419 い5 90 66 74 横円形	1.褐色土層(10YR2/3) 2.暗褐色土層(10YR3/3) 3.褐色土層(10YR2/3) 4.墨色土層(10YR4/4)	内ば9			
P375 <11 30 30 3 横円形	黒褐色土層(10YR2/2)					P420 こ7 94 68 24 横円形	褐色土層(10YR4/4)	(F3)			
P376 え12 20 18 4 方形	黒褐色土層(10YR2/3)	D71を切る。				P421 こ7 94 80 78 横円形	褐色土層(10YR4/6)	(F3)			
P377 <12 160 63 17 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	D71に切られる。				P422 け6 76 66 57 横円形	1.褐色土層(10YR2/3) 2.墨色土層(10YR2/2) 3.褐色土層(10YR2/3) 4.暗褐色土層(10YR3/3)	(F3)カクランに切られる。			
P378 <13 34 25 53 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P423 け7 146 88 69 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)				
P379 <14 38 34 69 横円形	暗褐色土層(10YR3/4)	(F6)				P424 こ10 76 60 42 横円形	1.褐色土層(10YR2/3) 2.墨色土層(10YR2/2)	(F3)カクランに切られる。			
P380 <14 85 53 30 長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	熱帯5g				P425 う4 84 78 14 円形	暗褐色土層(10YR2/3)	D39を切る。			
P381 ひ13 36 26 10 長方形	暗褐色土層(10YR3/3)	(F5)				P426 お11 140 112 54 横円形	1.暗褐色土層(10YR2/3) 2.墨色土層(10YR2/2)	P427を切る。			
P382 ひ13 40 38 13 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)					P427 お12 116 84 42 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P426に切られる。			
P383 <12 60 60 66 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)					P428 お11 92 866 19 —	1.黒褐色土層(10YR2/2) 2.墨色土層(10YR4/4)	M1に切られる。			
P384 <13 33 25 32 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)					P429 お12 106 76 47 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)	P434に切られる。			
P385 <13 54 42 66 横円形	暗褐色土層(10YR3/3)					P430 し3 80 600 12 円形	暗褐色土層(10YR3/3)	カクランに切られる。			
P386 ひ14 35 33 68 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P431 欠					
P387 ひ13 25 23 70 方形	褐色土層(10YR4/4)					P432 こ16 94 64 —	長方形				
P388 こ13 56 45 25 横円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P433 <15 125 68 57 横円形	—				
P389 ひ14 25 25 22 方形	暗褐色土層(10YR3/3)					P434 き6 1041 78 24 横円形	1.暗褐色土層(10YR2/3) 2.墨色土層(10YR2/2)	(F1)P417に切られる。			
P390 ひ13 30 24 26 長方形	暗褐色土層(10YR3/3)					P435 お10 88 88 —	円形				
P391 ひ14 40 20 50 円形	暗褐色土層(10YR3/3)					P436 ひ13 48 34 68 横円形	—	(F5)			
P392 さ12 30 30 37 円形	黒褐色土層(10YR2/3)					P437 せ8 50 40 55 横円形	—	P117に切られる。			
P393 き6 24 14 9 長方形	黒褐色土層(10YR2/3)					P438 こ5 38 20 —		P239に切られる。			
P394 か6 20 18 6 方形	暗褐色土層(10YR3/3)					P439 こ4 28 25 55 横円形	—				
P395 か6 26 26 40 方形	黒褐色土層(10YR2/3)	カクランに切られる。				P440 こ13 35 33 29 方形	—				
P396 <14 34 32 68 円形	—	(F6)				P441 き9 26 26 30 円形	—	P294を切る。			
P397 き14 65 63 33 円形	—										
P398 欠											
P399 き2 25 22 14 挿方型	—				P216を切る。						
P400 <13 43 38 56 横円形	—				D9に切られる。						
P401 さ5 54 30 58 長方形	—				(F7)D13を切る。						
P402 <12 32 26 36 横円形	—				D71を切る。						
P403 さ11 88 48 23 横円形	—										
P404 こ13 80 76 45 円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.暗褐色土層(10YR3/3) 3.暗褐色土層(10YR3/3)					P442 こ1 10 10 10 横円形	—				
P405 こ14 84 68 43 横円形	1.暗褐色土層(10YR3/4) 2.墨色土層(10YR2/3)	範文1 上層1				P443 こ1 10 10 10 横円形	—				
P406 こ13 70 64 34 円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	D54を切る。				P444 こ1 10 10 10 横円形	—				
P407 ひ12 80 60 23 横円形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.暗褐色土層(10YR3/3)	P28に切られる。 内ば1				P445 こ1 10 10 10 横円形	—				
P408 ひ12 80 74 26 方形	1.褐色土層(10YR4/4) 2.暗褐色土層(10YR3/4)					P446 こ1 10 10 10 横円形	—				
P409 さ16 98 54 26 横円形	暗褐色土層(10YR2/3)	内ば1				P447 こ1 10 10 10 横円形	—				
P410 さ16 52 43 22 長方形	黒褐色土層(10YR2/3)										
P411 欠											

第2表 白岡城跡Ⅲ出土遺物一覧表

遺物番号	種類	細分	量		内 容	外 形	文 様	測 定	備 考	出 土 地 點
			面積(㎡)	底面積(㎡)						
1 1	骨器	角	—	5.0	(1.4)	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
2 2	骨器	皿	—	—	(1.4)	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
3 3	陶器	灰釉陶	(8.6)	—	—	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
4 4	陶器	灰釉丸皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
5 5	陶器	灰釉丸皿	(1.8)	—	(2.2)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
6 6	陶器	灰釉丸皿	(10.5)	—	(2.2)	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
7 7	陶器	灰釉小皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
8 8	陶器	灰釉丸皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
9 9	陶器	灰釉丸皿	—	—	(7.0)	(1.1)	ロクロナード・施釉	—	—	北側山
10 10	陶器	灰釉丸皿	—	—	(6.6)	(1.1)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	北側山
11 11	陶器	灰釉丸皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
12 12	陶器	灰釉丸皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
13 13	陶器	灰釉丸皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
14 14	陶器	灰釉輪支皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
15 15	陶器	灰釉輪支皿	(13.2)	—	(4.7)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
16 16	陶器	天目茶碗	—	—	—	ロクロナード・施釉	—	—	—	北側山
17 17	陶器	天目茶碗	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
18 18	土器	漆付	—	—	—	油付	—	—	ヨコナード	北側山
19 19	陶器	灰釉輪支皿	(11.0)	—	(2.0)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
20 20	陶器	灰釉小碗	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
21 21	陶器	灰釉輪支皿	—	(6.2)	(1.5)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
22 22	陶器	灰釉陶	—	(6.0)	(1.8)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
23 23	陶器	灰釉こはれ	(19.6)	—	(3.9)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
24 24	陶器	灰釉輪支	(56.2)	—	(2.7)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
25 25	陶器	灰釉	(11.0)	—	(3.2)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
26 26	陶器	灰釉	(16.8)	—	(2.7)	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
27 27	陶器	灰釉輪支皿	—	—	—	ロクロナード・施釉	(灰釉)	—	—	北側山
28 28	陶器	灰釉陶	—	—	—	灰陶	—	—	トモケグリ	北側山
29 29	陶器	灰釉陶	—	—	—	灰陶	—	—	施釉	北側山
30 30	陶器	灰釉陶	—	—	—	灰陶	—	—	施釉	北側山
31 31	陶器	灰釉こはれ	—	—	—	灰陶	—	—	施釉	北側山



上版 通番	種類 番号	規格 寸法	規格 寸法	内面		外側		備考	出光位置 No.上位版 北カライン
				横幅(約) mm	高さ(約) mm	横幅(約) mm	高さ(約) mm		
57 1	土附門 土板	46.0	5.3	0.6				内月の二次利用 中世	き9
58 2	土附門 土板	2.7	2.5	0.8				内月の二次利用 中世	北カライン
金属製品									
59 1	鍵製品 鍵	(5.5)	0.6	0.5	(6.5)	上下部欠損			P404
60 2	鍵製品 鍵	4.0	2.5	1.3	(6.5)	欠損と変形あり			D54
61 3	鍵製品 角鉗	(17.8)	0.5	0.6	(10.0)	上部欠損			D54
62 4	鍵製品 角鉗	1.6	0.7	0.05	0.8	両側欠損			P427
63 5	鍵製品 角鉗	(5.1)	0.5	0.5	(1.85)	下部欠損			D65
64 6	鍵製品 角鉗	(0.2)	0.5	0.4	(1.09)	上・下部欠損			D66
65 7	鍵製品 角鉗	9.5	1.4	0.9	(9.36)	片側欠損			P178
66 8.1	鍵製品 角鉗	(4.2)	0.6	0.9	(3.41)	上・下部欠損			P236
67 8.2	鍵製品 角鉗	(4.3)	0.7	0.9	(3.30)	下部欠損			P236
68 8.3	鍵製品 角鉗	(5.2)	0.9	0.5	(2.83)	欠損あり			P236
69 8.4	鍵製品 角鉗+?	(3.3)	1.2	0.8	(3.12)	下部欠損、不整直物保持			P236
70 8.5	鍵製品 角鉗	(6.2)	0.5	0.5	(2.91)	上・下部欠損			P236
71 8.6	鍵製品 角鉗	(3.7)	1.5	0.5	(2.31)	上・下部欠損			P236
72 8.7	鍵製品 角鉗	(1.9)	0.9	0.4	(0.55)	上下部欠損			P236
73 9	鍵製品 角鉗	(5.5)	0.9	0.5	(2.52)	欠損部あり			P261
74 10	鍵製品 角鉗	(4.1)	0.9	0.7	(2.46)				P380
75 11	鍵製品 角鉗	(3.8)	1.0	0.4	(1.75)	下部欠損			南極9号 北船出
76 12	鍵製品 角鉗	(7.2)	0.5	0.5	(4.75)	上・下部欠損			<4
77 13	鍵製品 鍵	(13.1)	1.3	1.0	(24.30)	機身留・全墨穴出			i.i.5
78 14	鍵製品 刀刃	(5.8)	1.1	0.8	(4.80)	両側欠損			i.i.5
79 15	鍵製品 角鉗	4.2	(0.7)	(0.5)	(1.84)	一端欠損			う6 No.5
80 16	鍵製品 兩用小形鉗	3.5	1.9	1.7	6.42	内面に突起あり			う5 No.7
81 17	鍵製品 鍵金具	9.4	2.5	0.5	16.24				う7
82 18-1	鍵製品 鍵金具	3.5	1.6	0.8	(3.58)	右部分欠損			う7
83 18-2	鍵製品 ?	(2.3)	1.6	0.1	(1.34)	両側欠損			う8
84 19	鍵製品 刀子	(2.8)	1.4	0.7	(2.00)	傷状か?			No.10
85 20	鍵製品 刀子	(4.0)	1.4	0.4	(3.78)	両側欠損			D65 310回頭
86 21	鍵製品 脇り金具?	(3.7)	(1.1)	0.3	(1.13)	機軸穴あり 両側欠損			か11 No.2
87 22	鍵製品 ?	(5.9)	(0.4)	(0.7)	(2.04)	機軸の縦部分			

通称	商品名	種類	規格	販入価	販出価	量 (kg)	出力位置	備考		
								高さ	幅	厚さ
88 23 紙製品	管	角材	(2.9)	0.7	0.7	(1.77)	下部欠損			
89 24 紙製品	角材	角材	(3.5)	0.9	0.4	(1.84)	下部欠損			
90 25 丸	?	2.1	1.5	0.7	6.87	軸ではない				<12
91 26 紙製品	?	1.9	0.8	0.8	1.93	環状 (Φ0.8)				Φ13
92 27 紙製品	棒	角材	(7.5)	2.8	0.45	(8.90)	左端欠損			<13
93 28 紙製品	角材	角材	(12.1)	2.8	0.7	(17.07)	上下部欠損			Φ14
94 29 紙製品	管	角材	7.3	1.0	1.2	7.01				Φ16
95 30 紙製品	管	角材	2.4	2.4	0.45	1.70				Φ17 No.15
96 31 紙製品	外輪	角材	(7.2)	0.7	0.5	(9.71)	上下部欠損			Φ18 No.20
97 32 紙製品	角材	角材	(7.6)	0.4	0.4	(10.65)	上下部欠損			Φ18
98 33 紙製品	?	7.0	0.6	0.5	4.77	端部欠損				北極出
99 34 丸	紙製品	角材	(3.0)	0.5	0.3	(0.97)	環形・先端部欠損			北極出
100 35 紙製品	角材	角材	(3.3)	0.8	0.6	(2.71)	先端部欠損			北極出
101 36 紙製品	角材	角材	(4.5)	1.6	0.4	(6.22)	両端部欠損			北カライン
102 37 紙製品	角材	角材	4.1	0.8	0.4	1.64				北極出
丸輪	規格	種類	規格	販入価	販出価	量 (kg)	出力位置	備考		
								高さ	幅	厚さ
103 1 青銅製品	古板	古板	2.4	2.4	—	3.24	金道元(古)切削 (9.95)			D 6.8
104 2 青銅製品	古板	古板	2.4	2.4	—	2.76	天馬(古)切削 (10.23)			Φ15 No.4
105 3 青銅製品	古板	古板	2.3	2.3	—	2.29	鷹澤元(古)切削 (10.68)			Φ15 No.1
106 4 青銅製品	古板	古板	2.4	2.3	—	1.93	新光元(古)切削 (10.94)			Φ16 No.8
107 5 青銅製品	古板	古板	2.4	2.4	—	3.27	光陽(古)切削 (10.86)			Φ17 No.6
108 6 青銅製品	古板	古板	—	—	—	0.58	O(古)切削			Φ17 No.9
109 7 青銅製品	古板	古板	—	—	—	0.65	開口(古)切削 (8.45)			Φ16 No.11
110 8 青銅製品	古板	古板	2.3	2.3	—	2.38	寛永(古)			Φ11 No.1
111 9 青銅製品	古板	古板	2.4	2.4	—	3.17	水原(古)切削 (9.1408)			Φ12 No.3
112 10 青銅製品	古板	古板	2.0	2.0	—	2.81	西武(古)切削 (13.68)			Φ12 No.1
113 11 青銅製品	古板	古板	2.1	2.1	—	2.04	OOOO			Φ11 No.19
114 12 青銅製品	古板	古板	—	—	—	2.60	洪武(古)切削 (13.68)			Φ13 No.2
115 13 青銅製品	古板	古板	2.3	2.3	—	3.11	相馬(古)切削 (11.94)			Φ15 No.3
116 14 青銅製品	古板	古板	—	—	—	—	OOOO			L15
117 15 青銅製品	古板	古板	—	—	—	0.86	元OO底			Φ15

48. (地質)									
山土化頭					山土化頭				
番号	種類	種類	種類	種類	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)
118	青銅製品	古鉄	高大頭	高人頭	—	1.12	○赤鉄〇	—	—
119	青銅製品	古鉄	—	—	—	—	神符(元寶)切削年(1069)	—	—
120	青銅製品	古鉄	2.4	2.4	—	3.24	元治鉄(7切削年(1086))	—	—
121	青銅製品	古鉄	2.2	2.2	—	1.82	元治鉄(7切削年(1086))	—	—
122	青銅製品	古鉄	2.4	2.4	—	2.53	元治鉄(7切削年(1086))	—	—
123	青銅製品	古鉄	—	—	—	1.79	明治鉄(7切削年(1388))	—	—
147. 青銅製品									
出土地面									
番号	種類	種類	種類	種類	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)	層厚 (cm)
124	石器	支脚石?	高人頭	高人頭	(9.1)	(6.3)	(3.5)	○赤鉄〇 被熱あり(正義黒化)	下部火鉄 正面に赤鉄の斑 安山岩
125	石器	礫物石	(12.4)	(6.1)	(6.7)	(48.53)	被熱なし 下部火鉄 裏面欠損 安山岩	—	D11 A.4
126	石器	礫物石	(12.1)	(5.0)	(4.1)	(26.80)	被熱なし 下部火鉄 安山岩	—	B11
127	石器	礫物石	1.42	3.9	2.4	216.62	被熱なし 安山岩	—	け16 こせ17
128	石器	礫物石	1.21	4.5	2.3	219.71	被熱あり(正義黒化) 被熱は占い炭のものと思われる 背面に燃焼有り	—	北側出
129	石器	礫物石	(11.3)	(4.3)	(3.1)	(22.99)	被熱あり(ト耐熱泥一層 左側黒化) 下部火鉄 枝りのため剥離か	—	カクラン
130	石器	礫物石	(8.7)	(3.8)	(2.8)	(16.79)	被熱なし 下部火鉄 裏面欠損	—	—
131	石器	礫物石	(9.5)	(3.0)	(3.2)	(47.45)	被熱なし 裏面に燃焼有り	—	D44
132	石器	軽石製品	5.8	5.5	4.5	67.98	被熱なし 裏面に火炎痕 被熱	—	D54 A.3
133	石器	軽石製品	9.5	7.0	5.0	58.63	被熱なし 裏面に火炎痕 被熱	—	—
134	石器	軽石製品	(5.9)	6.7	2.2	(261.4)	被熱なし 裏面に火炎痕 被熱	—	D62 B.5 No.2
135	石器	砾石	(9.9)	(5.2)	(2.5)	(41.81)	被熱あり (全体に黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
136	石器	砾	(8.0)	(4.6)	(2.5)	(129.7)	被熱あり (正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
137	石器	砾石	(3.4)	(3.3)	(2.0)	(26.82)	被熱なし 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
138	石器	砾	(6.3)	(3.1)	(1.7)	(46.72)	被熱なし 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	D11 B.11 北側出
139	石器	砾石	(17.2)	(7.0)	(4.6)	(326.64)	被熱あり(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
140	石器	砾	(5.9)	(2.5)	(1.6)	(57.81)	被熱なし 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
141	石器	砾石	(7.4)	(4.5)	(3.5)	(57.15)	被熱なし 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
142	石器	砾石	(9.0)	(3.5)	(1.7)	(55.17)	被熱あり 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
143	石器	砾	(7.0)	(5.1)	(1.2)	(64.76)	被熱なし 上部火鉄 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	C16 No.18 北側出
144	石器	砾	(5.4)	(4.7)	(0.7)	(22.24)	被熱なし 裏面に火炎痕 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
145	石器	スクリバー	13.0	9.3	1.5	25.23	被熱あり(正面向へ黒化) 裏面に火炎痕 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	D39 北側出
146	石器	丸製石斧	(6.1)	(7.7)	(1.2)	(68.05)	被熱なし 上部火炎痕 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—
147	石器	礫物石	(11.1)	(5.8)	(3.1)	(57.44)	被熱あり(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被熱有り(正面向へ黒化) 被灰岩	—	—

地質										(元) (横)	
出井位置	偏 考				偏 考				出井位置	(元) (横)	
層位	岩種	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚	層幅
145	25	右端	屬岩石	19.0	5.3	3.3	505.33	被熱あり(山のみ黒い)海綿穿孔紙	松井のためか? 安山岩	P.11	
149	26	右端	岩石	17.7	(11.9)	(4.0)	530.33	被熱あり(山のみ黒い)海綿穿孔紙	正圓に滑らかな面 安山岩	8	
150	27	右端	骨石	22.7	(17.0)	(4.5)	2,480	被熱なし 左側欠損 正圓を以て長い面と直面あり スリの複雑な部分あり 安山岩	カクラン	8	
151	28	右端	角砾	16.7	23.5	16.0	16,480	被熱なし 精形後残る 黒色多孔質安山岩	DS4, No.1		
152	29	右端	石器	15.0	21.2	1.5	2,460	被熱なし 削面へ薄削又は横 ポンサイ2.0×5.0 頂部4.6	き10		
153	30	右端	石器	(1.6)	(6.1)	(4.4)	(36.62)	被熱なし 安山岩			
154	31	右端	茶E(上)D(下)	10.5	(1.2)	(10.8)	(841.22)	被熱なし 芯棒丸(2.8) 滑き木(2.0×2.0 滑さき3.5 安山岩	カクラン		
155	32	右端	石器	15.9	(11.8)	(10.8)	(2,290)	被熱なし お端丸(2.1) 直径(3.0) ふくみ幅(1.0) 安山岩	カクラン		
156	33	右端	石器	23.9	(15.8)	(10.7)	(2,290)	被熱なし 直径(3.0) ふくみ幅(1.0) 安山岩	P.42(F.3)		
157	34	右端	石器	19.2	(18.2)	(7.1)	(2,240)	被熱なし 直径(3.0) 芯棒丸(3.0) 径輪外周径2.0×長軸不明 安山岩	1号右側 No.1		
158	35	右端	石器	19.7	(12.7)	(12.5)	(2,730)	被熱なし 直径(3.2) 安山岩	1号右側 No.2		
159	36	右端	石器	18.7	(15.2)	(12.0)	(3,110)	被熱なし 安山岩			
160	37	右端	石器	(20.3)	(17.2)	(10.3)	(3,690)	被熱なし 直径(3.1-3.6) 供給外周径2.2×長軸不明 滑き木(1.20×4.0 滑さき1.7 安山岩	う7		
161	38	右端	石器	(22.4)	(15.9)	(9.3)	(3,600)	被熱なし 直径(3.2) すり合む複雑断面 安山岩	D52		
162	39	右端	石器	(28.1)	(18.6)	(8.5)	(4,290)	被熱なし 直径(2.8) 極端引(2.0)-引(2.8) 安山岩	お6		
163	40	右端	石器	(1.8)	(1.3)	0.5	(0.63)	被熱なし 丸棒	え5		
164	41	右端	石器	2.3	1.8	0.25	0.80	被熱なし 丸棒	き13 No.14		
165	42	右端	石器	2.3	1.5	0.9	2.95	被熱なし 全体が自然凹 黑曜石	き14		
166	43	右端	石器	(3.8)	(3.5)	(0.5)	(7.74)	被熱なし 削側欠損 黑曜石	し18クララン		
前	層位	岩種	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚
167	1	片	高溫石	18.7	3.3	(11.88)	被熱小網				
168	2	片	石器	3.4	2.5	2.4	(11.10)	被熱			
169	3	片	石器	(3.5)	(1.4)	(0.7)	(1.61)	部位不規			
前	層位	岩種	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚	層幅	層長	層厚
170	1	片	高溫石	4.3	4.1	0.9	-	-			
171	2	鋼文	石板	-	-	-	-	-			
172	3	鋼文	海綿	-	-	-	-	-			
173	4	新生	亞	-	-	-	-	-			



白岩城跡Ⅲ 遠景（北より）



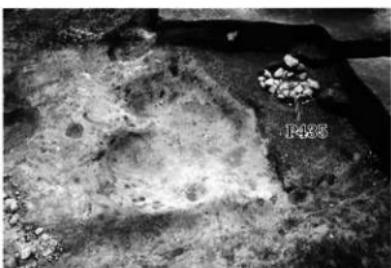
白岩城跡Ⅲ 全景（西より）



白岩城跡Ⅲ 虎口付近（西より）



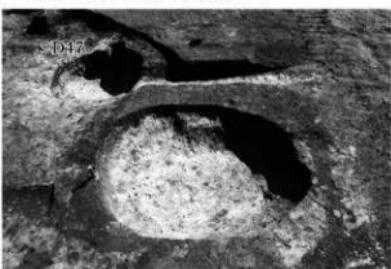
D65 完掘（西より）



D65 堀方、P435（西より）



D66 完掘（東より）



D66 堀方、D47 完掘（西より）



お・か11グリッド 土墨壠石列2～4（西より）



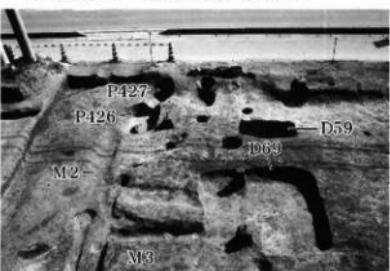
お・か11グリッド 土墨壠石列3（北西より）



お11グリッド 土墨壠石列3（北より）



か11グリッド 南側土墨壠石列2（南より）



D59・D69、P426・P427、M2・M3 完掘（西より）



北区全景（南より）



北区南西部（東より）



北区北西部（南東より）



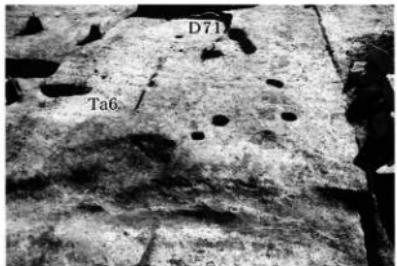
北区全景（北より）



北区東側（西より）



D41・D44・石組1 完掘（南より）



き11グリッド石列除去後（北より）



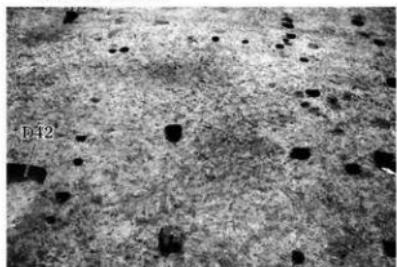
南区南東部（北西より）



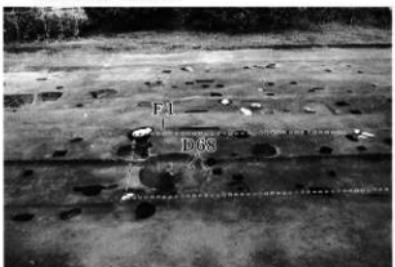
南区東部（西より）



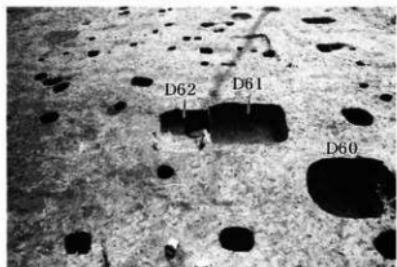
南区南西部（北より）



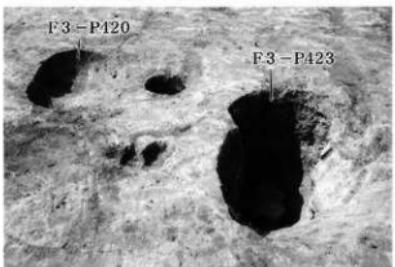
F 2 完掘（西より）



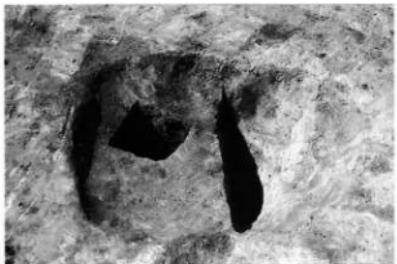
F 1, D68 完掘（東より）



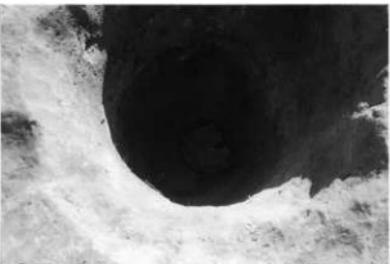
F 3, D60~D62 完掘（西より）



F 3 - P420・P423 完掘（南東より）



F3-P421 柱痕（東より）



F3-P421 遺物出土状況（北より）



F3-P205 柱痕（南より）



F4 完掘（東より）



Ta6 完掘（北より）



Ta6 堀方（北より）



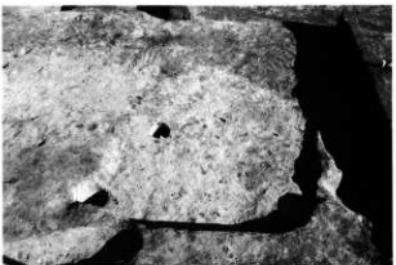
Ta6・Ta10・D59・D69 完掘（北より）



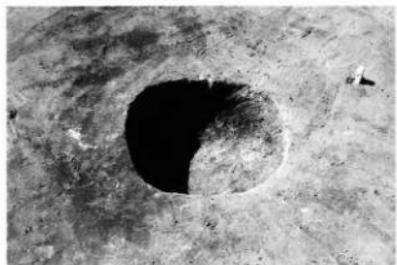
D69 完掘（南より）



D70 完掘（西より）



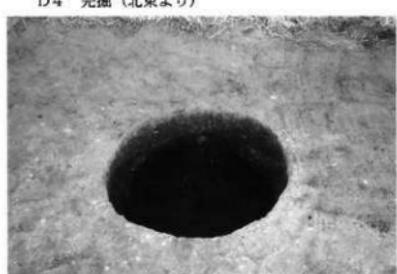
D71 完掘（西より）



D4 完掘（北東より）



D9 完掘（北より）



D10 完掘（西より）



D11 完掘（南より）



D13 完掘（東より）



D14 完掘（東より）



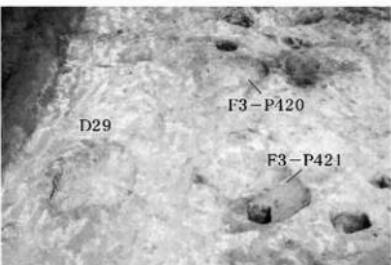
D17・D18 完掘（南より）



D21 完掘（南東より）



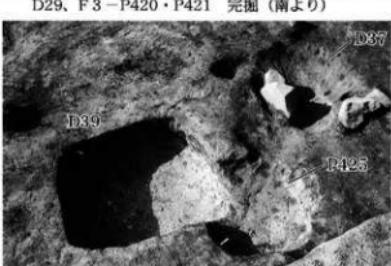
D26 完掘（東より）



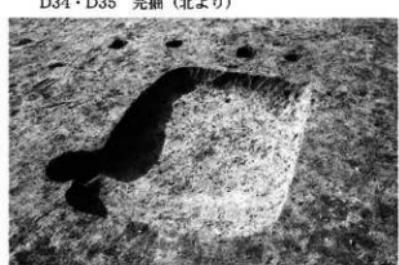
D29、F3-P420・P421 完掘（南より）



D34・D35 完掘（北より）



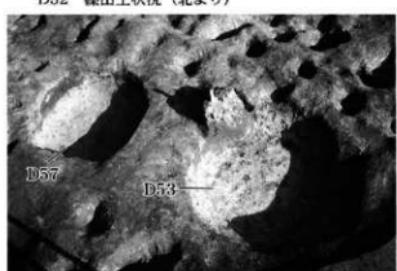
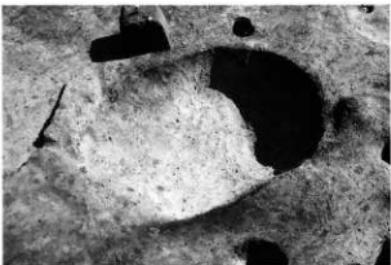
D37・D39、P425 完掘（北より）

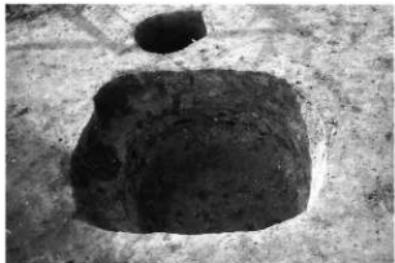


D42 完掘（北より）

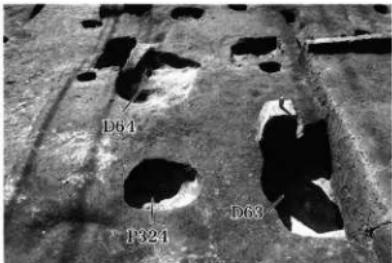


D42・D43、北区全景（北より）

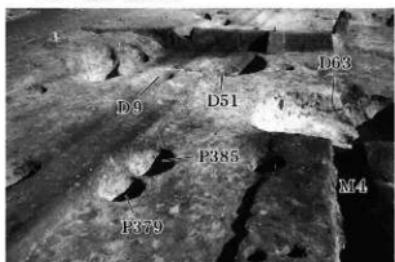




D60 完掘（東より）



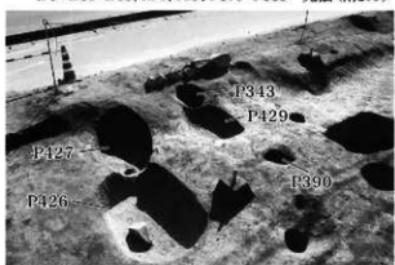
D63・D64、P324 完掘（北より）



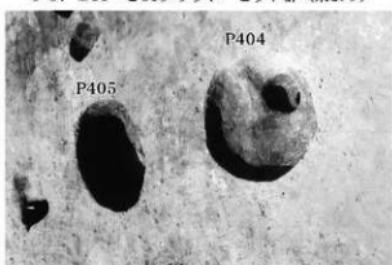
D9・D51・D63, M4, H6, P379・P385 完掘（南より）



F4, こ11～さ13グリッド ピット群（東より）



P343・P390・P426・P427・P429 完掘（北より）



P404・P405 完掘（東より）



P408 完掘（北より）



P409 完掘（北より）



P410 完掘（北より）



D12 完掘（東より）



D15・P413 完掘（東より）



P414 完掘（東より）



D72 完掘（西より）



P432 完掘（北より）



P435 完掘（東より）



石組1 完掘（西より）



石列1（南より）



こ16グリッド（東より）



さ13グリッド（南東より）※写真のみ



東土壠北側（南より）



石列4（お12グリッド、北より）



南堀 完掘（東より）



36



37



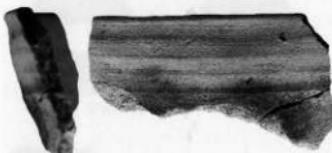
38



40



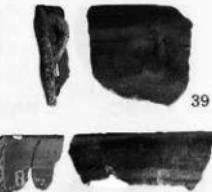
41



42



43



44

内耳



54



55



56

火鉢



45



46



47



57



48



49



58

土板



からわけ (1:2)



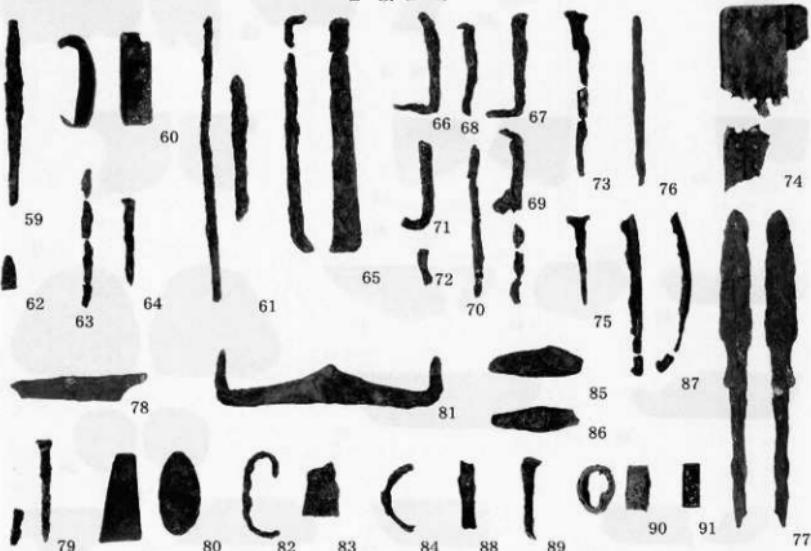
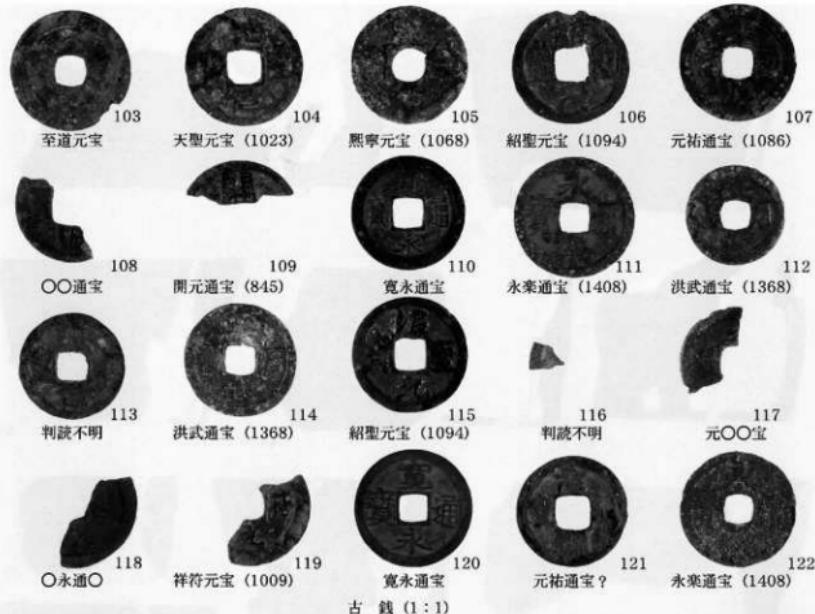
51



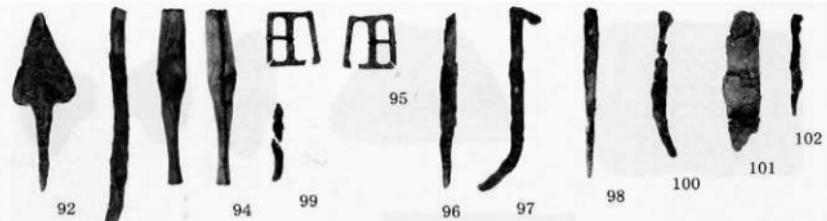
52



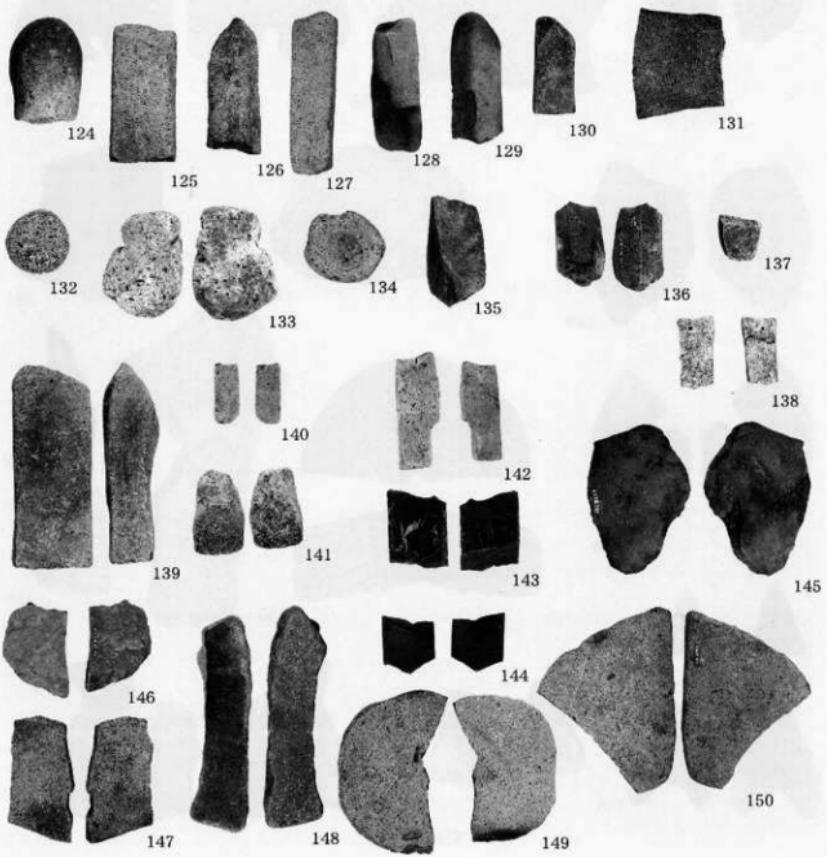
53



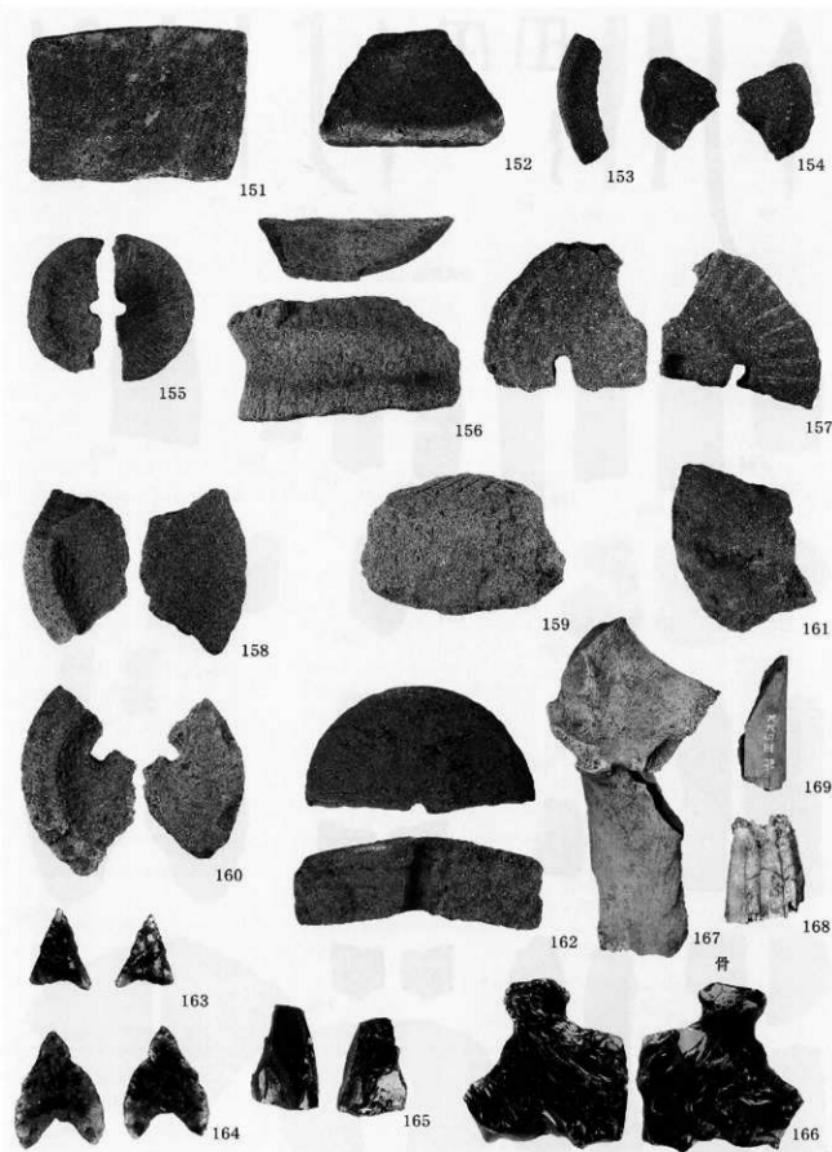
金屬製品 (1) (1:2)



金属製品（2）



縞物石・磨石・砥石・硬石



台石・茶臼・粉挽き臼・石鏟

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第198集

白岩城跡Ⅲ

2012年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

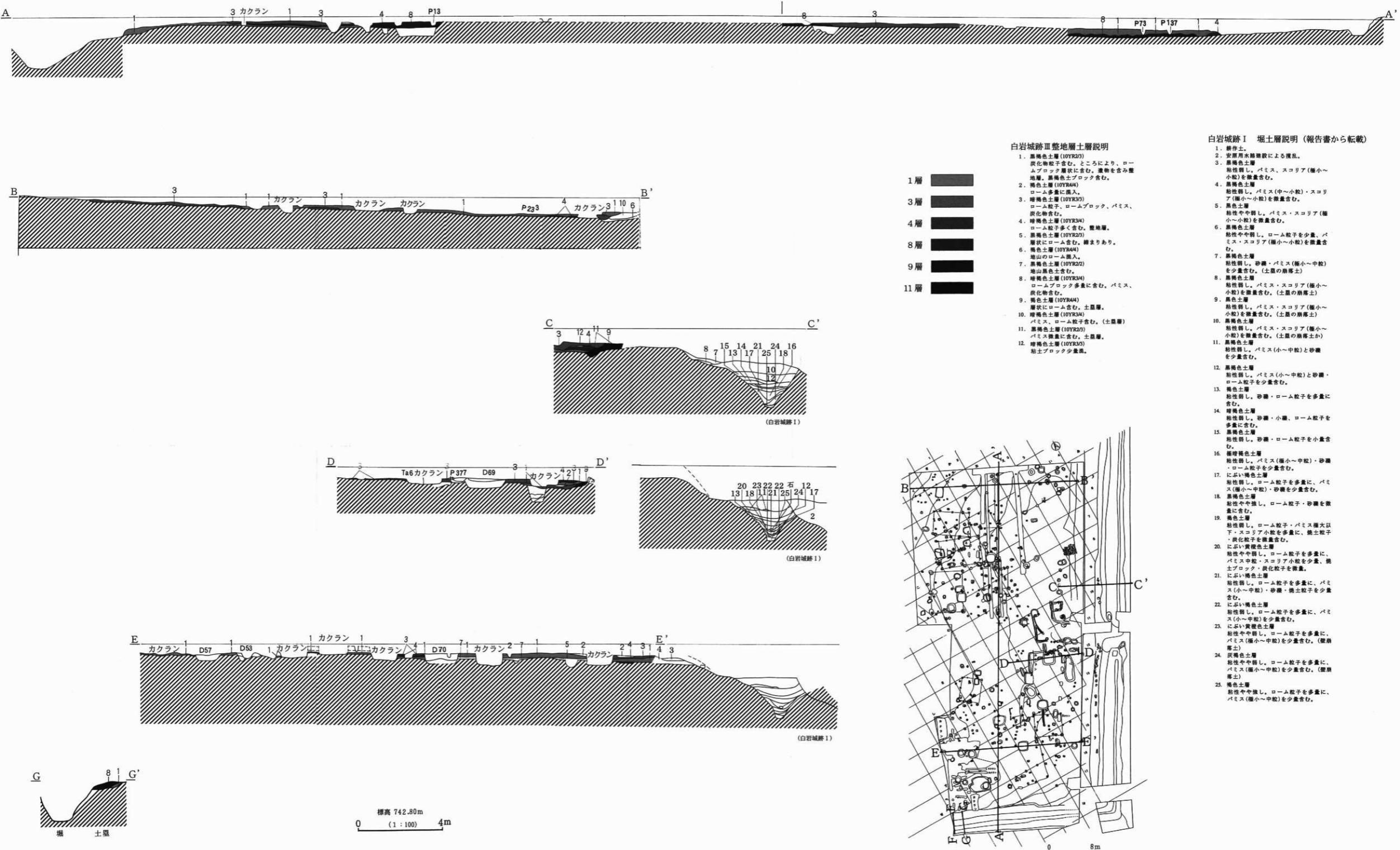
TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社

---

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	しらいわじょうせきさん
書名	白岩城跡Ⅲ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第197集
編著者名	森泉かよ子
編集機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20120331
郵便番号	3850006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
ふりがな	しらいわじょうせき
遺跡名	白岩城跡
ふりがな	ながのけんさくしかみひらお
遺跡所在地	長野県佐久市上平尾
遺跡番号	佐久市 67
北緯	36°-17'-7" (世界測地系)
東経	138°-30' (世界測地系)
調査期間	20090902-20091030
調査面積	1,720m <sup>2</sup>
調査原因	店舗新築
種別	中世城館跡
主な時代	中世(15C後半~16C)
遺跡の概要	散布地-縄文-遺物-土器片3-石器4 館跡-中世-掘立柱建物址9+竪穴状造構3+土杭45+石組1+溝4+石列4+塙+ビット426-瀬戸灰釉小皿+かわらけ+内耳+茶臼+粉挽臼+渡来鏡+刀金具
特記事項	白岩城跡の築かれたのが15世紀中頃で、廃絶が16世紀末と伝承されていたが、出土遺物の大窯製品・かわらけ・内耳などからは15世紀末~16世紀の年代が得られた。礎石のある掘立柱建物址・ビット群の集中箇所や塙と土壘など館跡の様相が判明した。



付図1 白岩城跡Ⅲ横断面図

